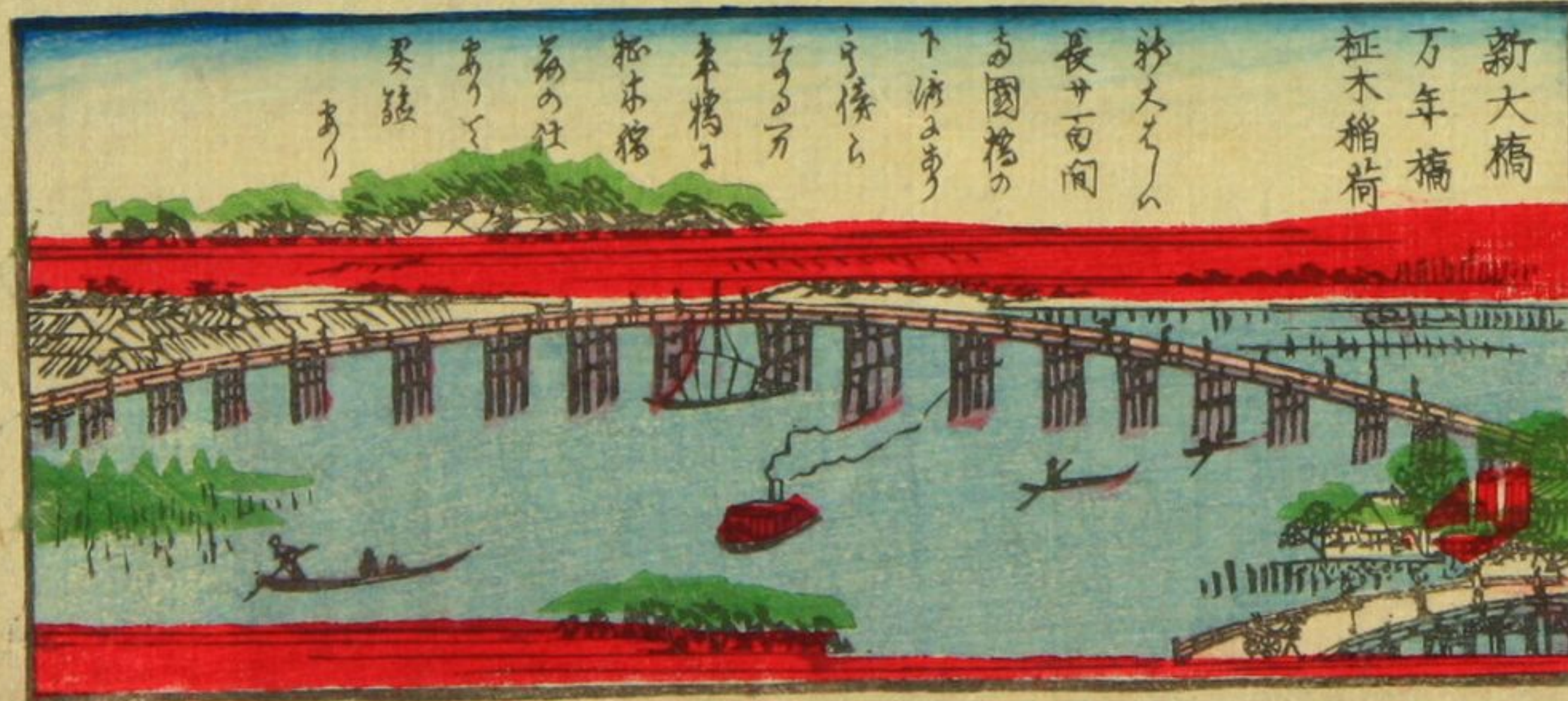
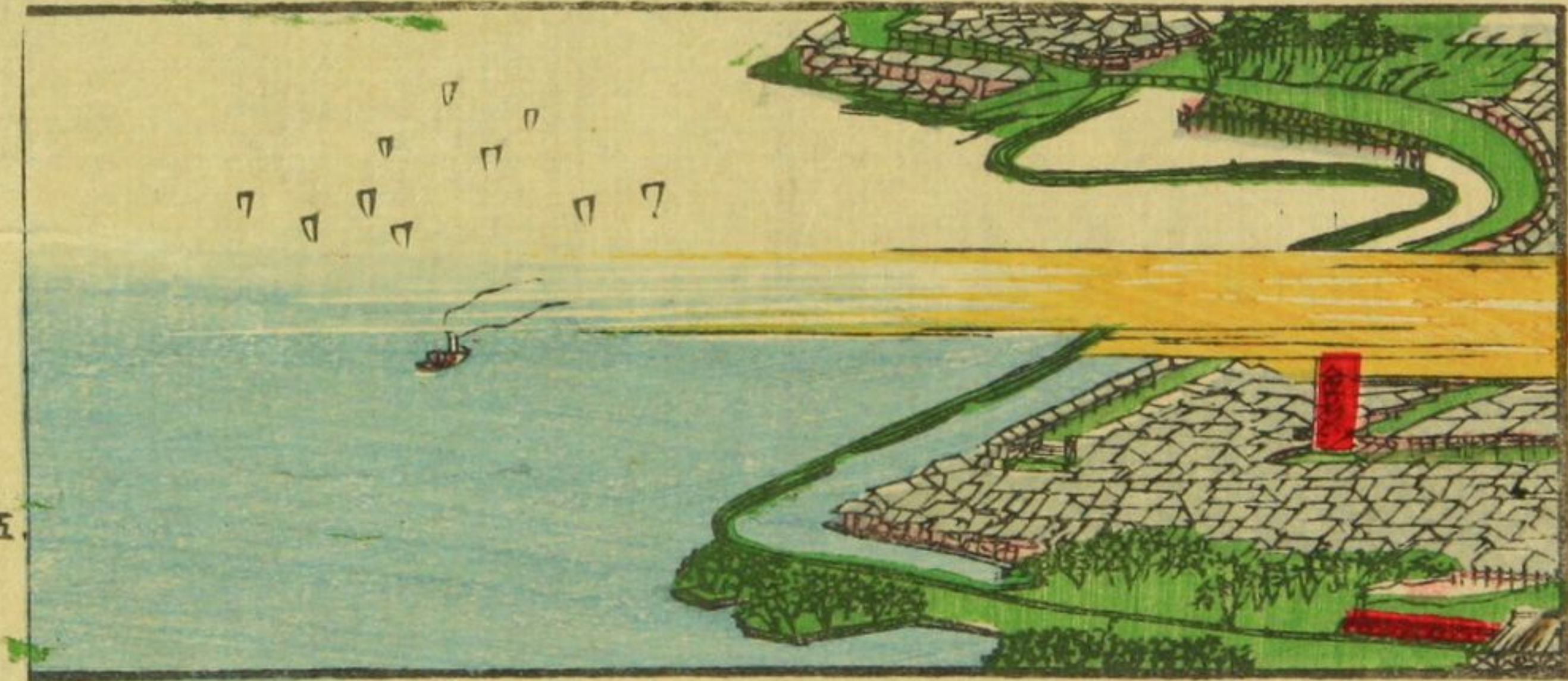
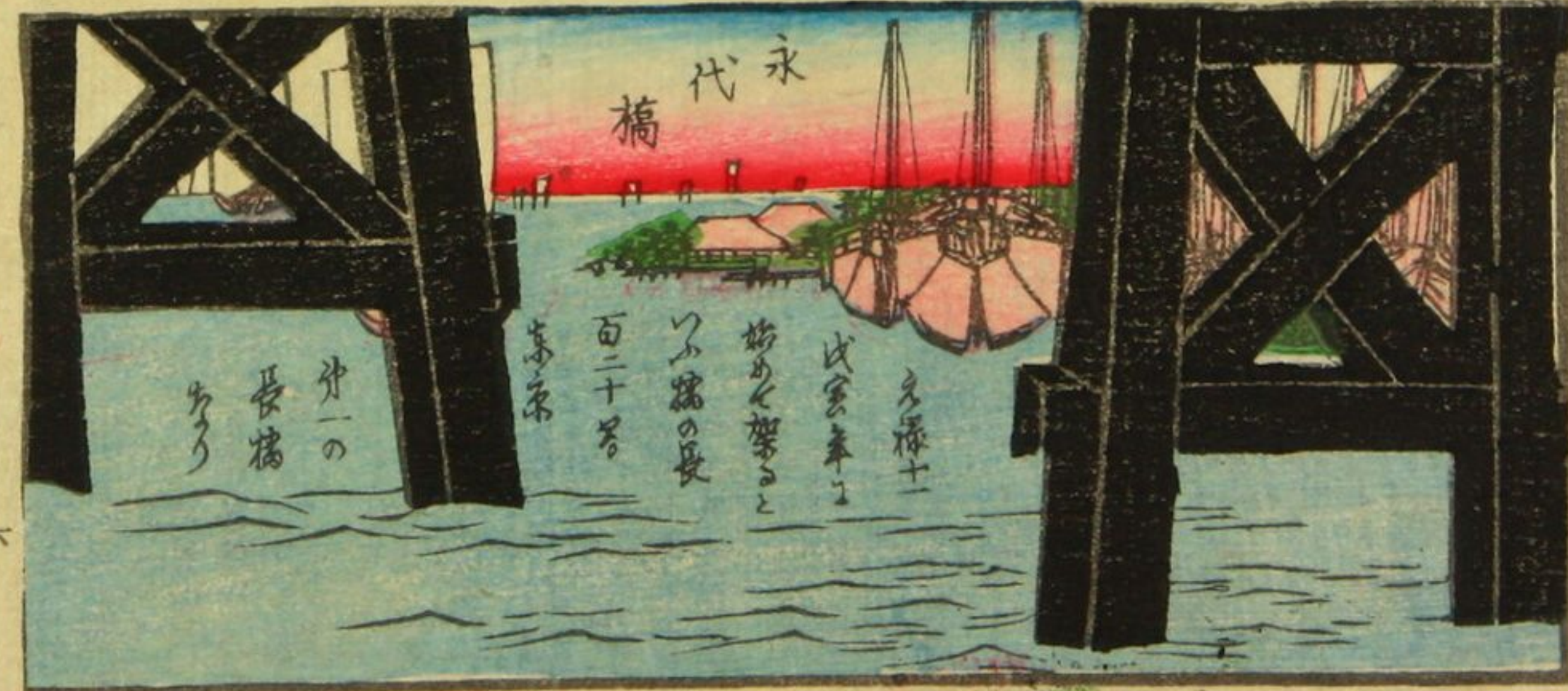


此塔は西洋航  
五階造りあり  
度鋼の柱を以て  
外骨筋を以て骨  
格あり 十二丈余  
開口十五間  
奥行廿八間  
明治五年の建築也

海運橋  
第一国立銀行

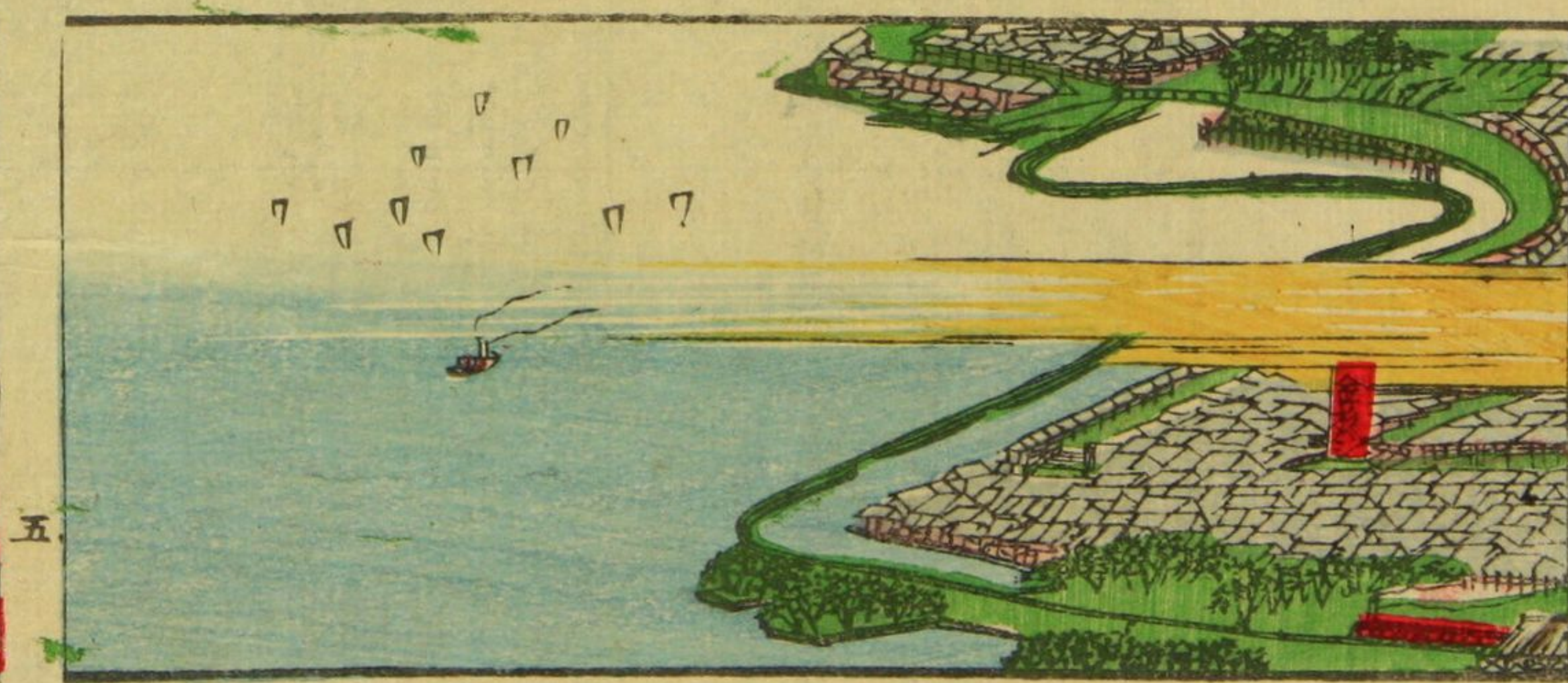
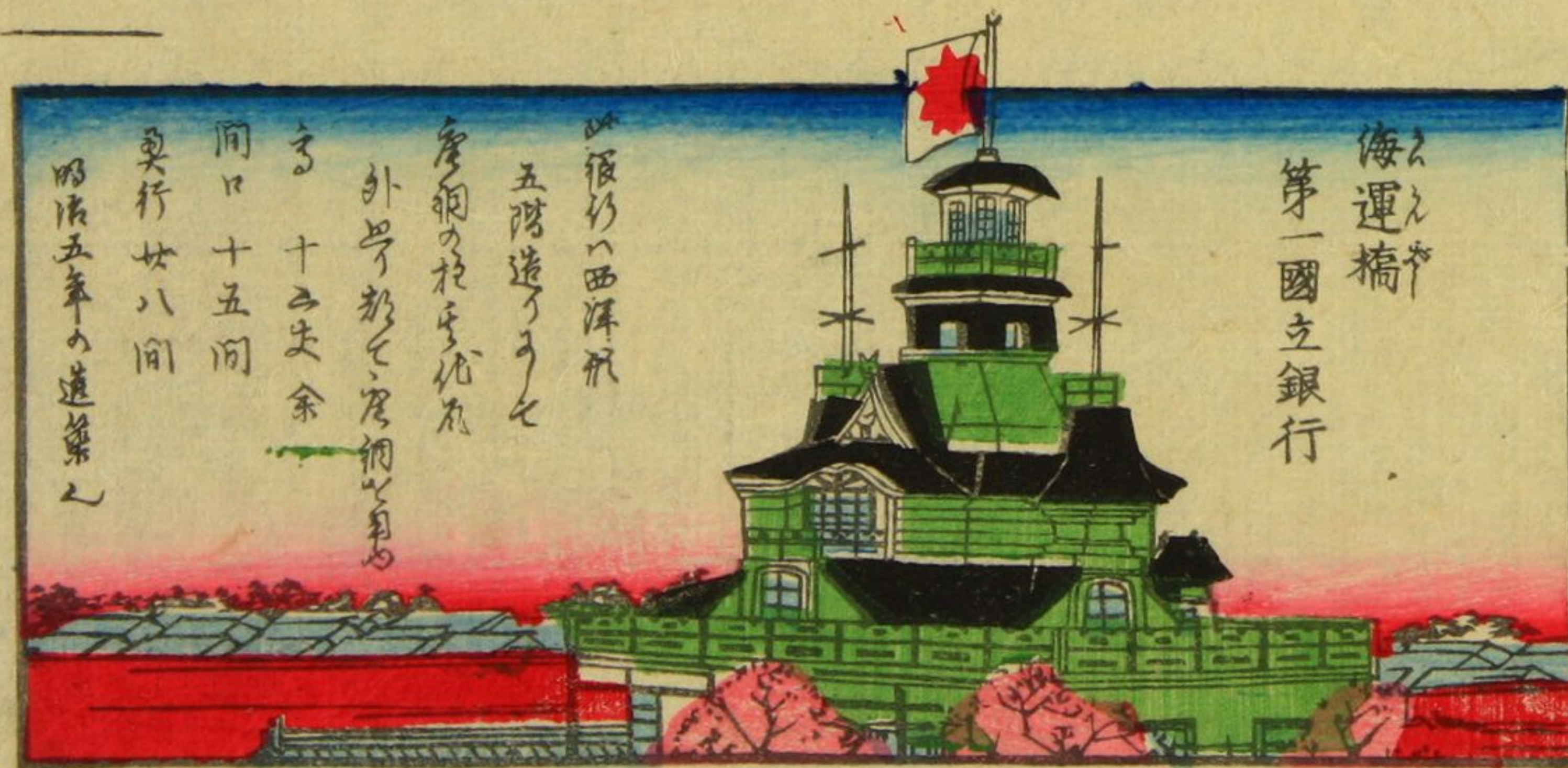
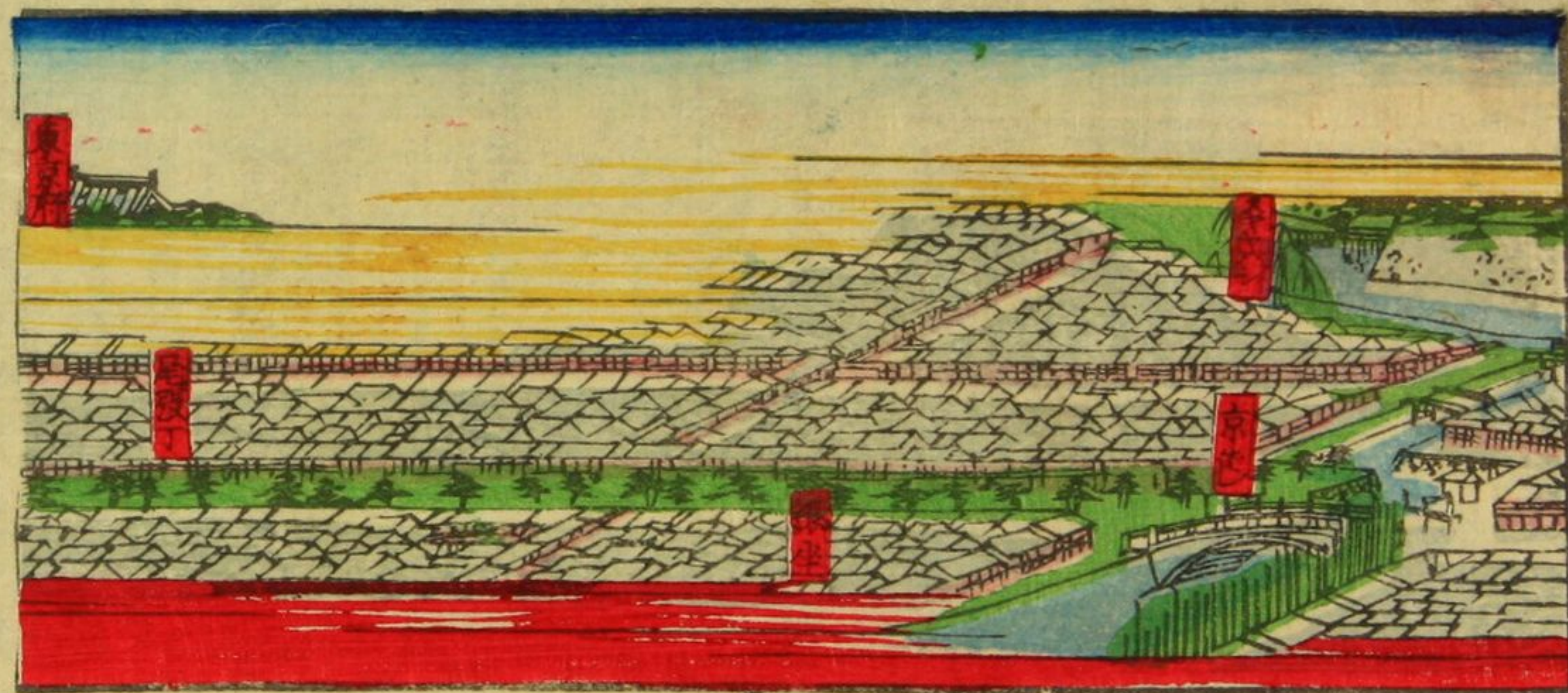
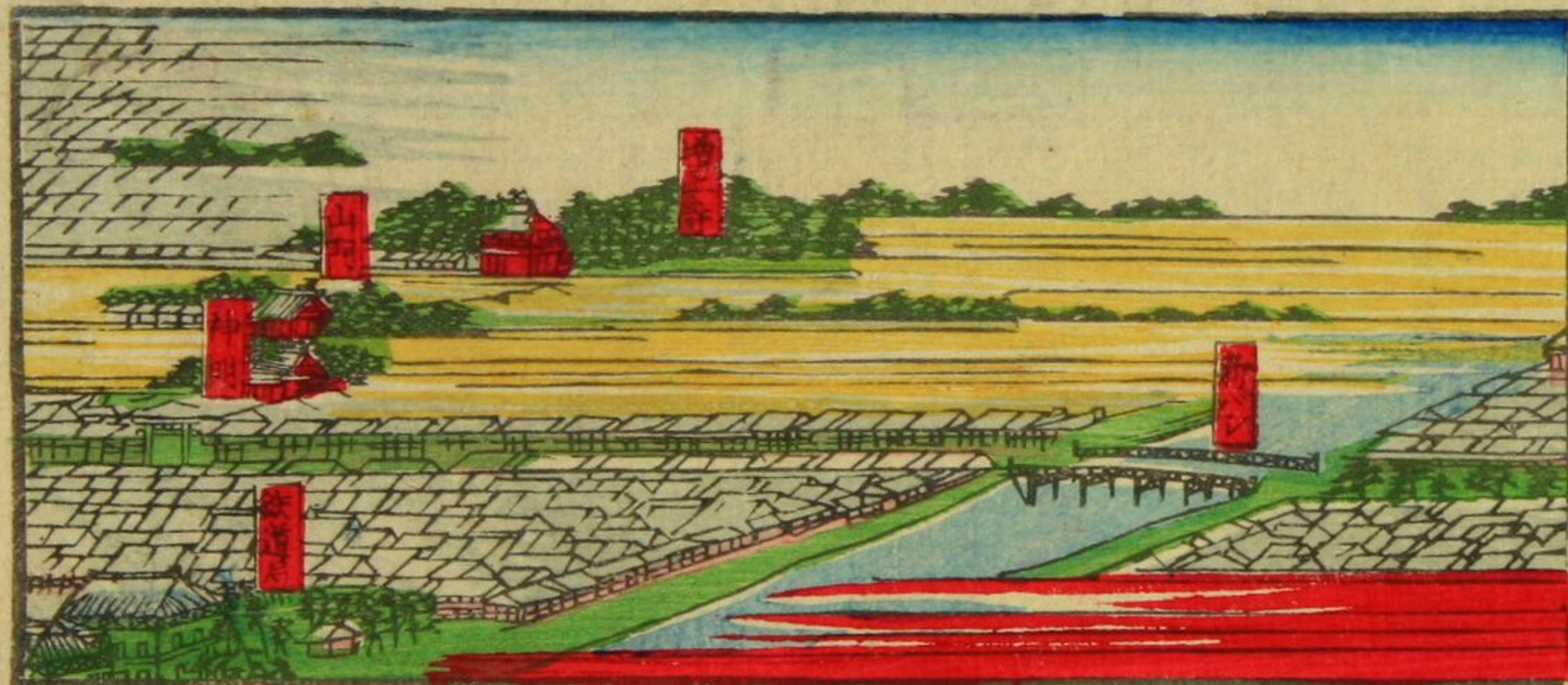


新大橋  
万年橋  
榎木箱荷  
砂大く  
長サ百間  
丸橋の  
下流より  
字候に  
あり 万  
本橋  
榎木箱  
荷の仕  
あり  
要路  
あり



永代橋  
橋  
此橋は  
明治十  
五年に  
築かれ  
長さ  
百二十  
丈  
舟の  
長橋  
あり





海運橋  
第一国立銀行

此橋は西洋航

五階造りあり

度朝の光を浴び

外野から見るに

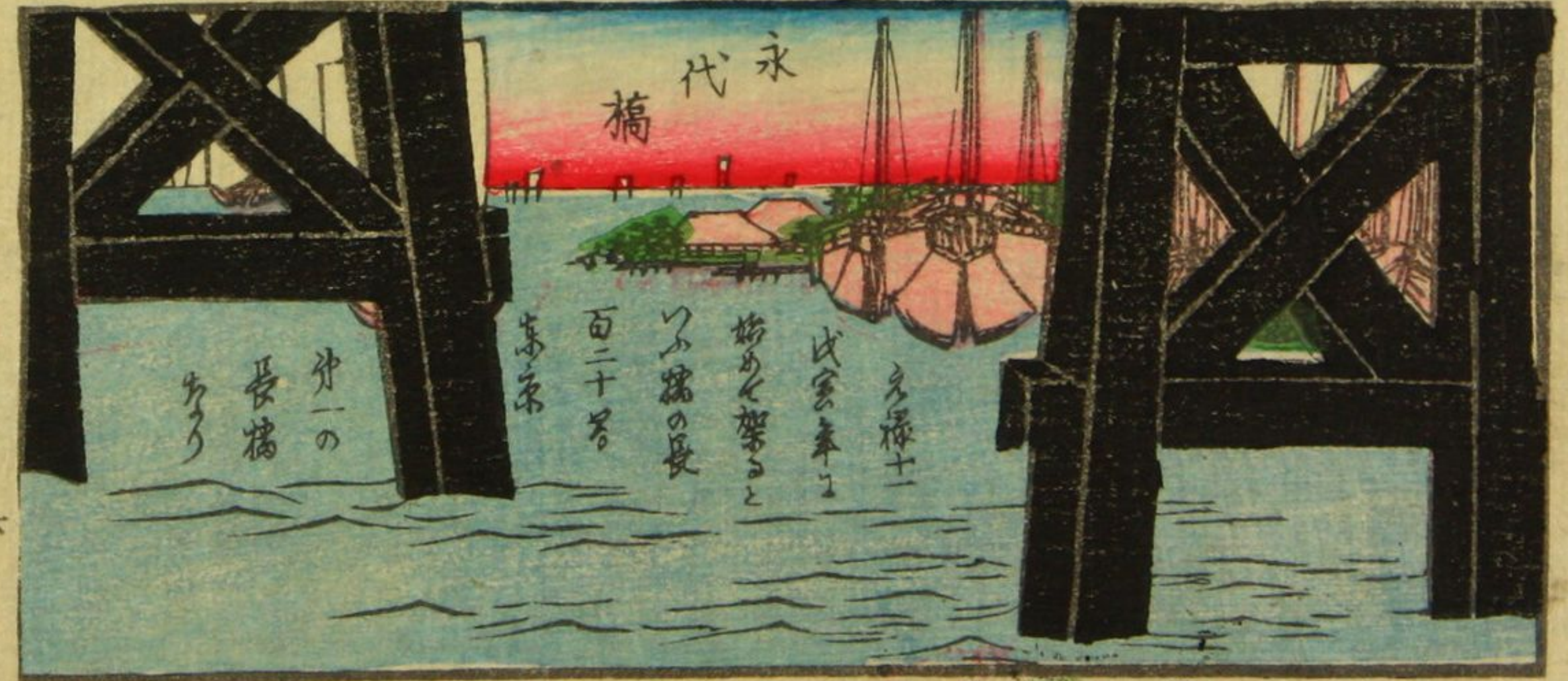
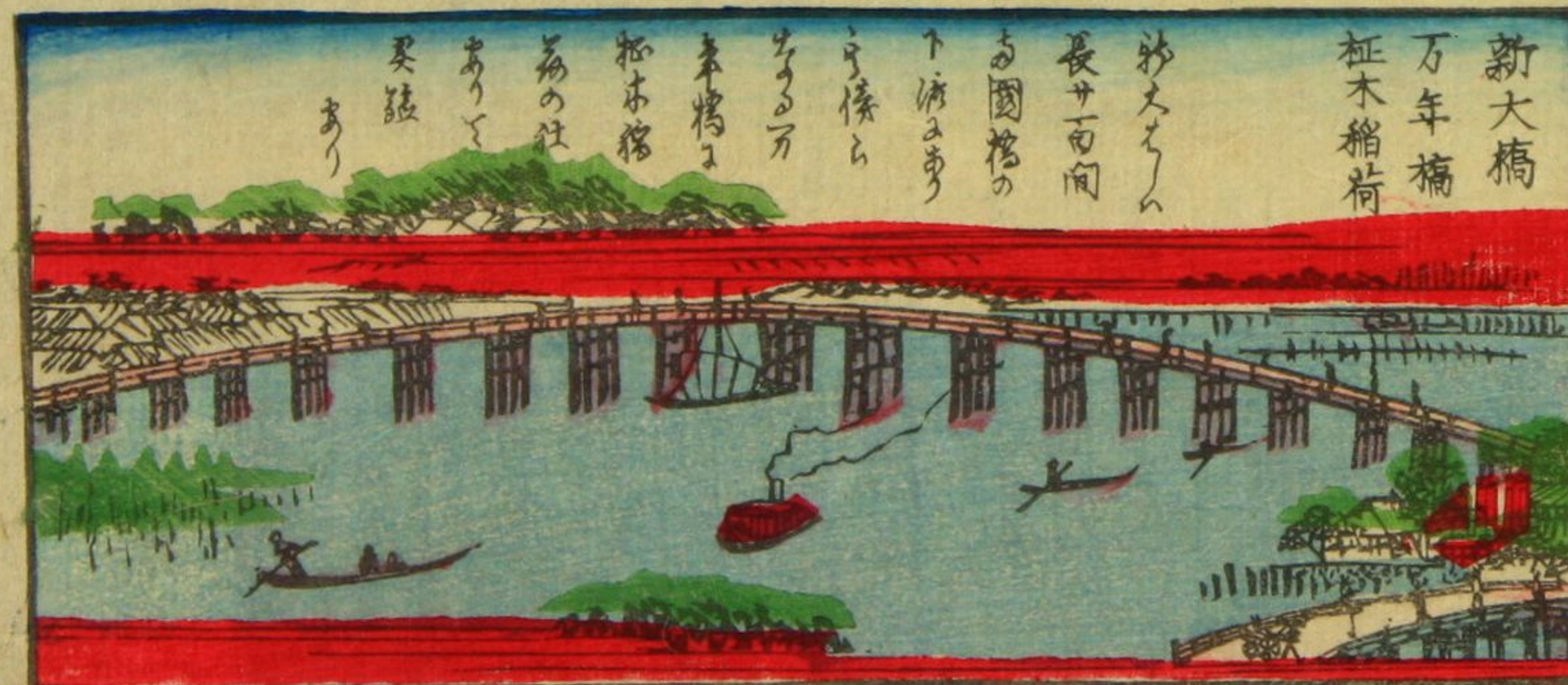
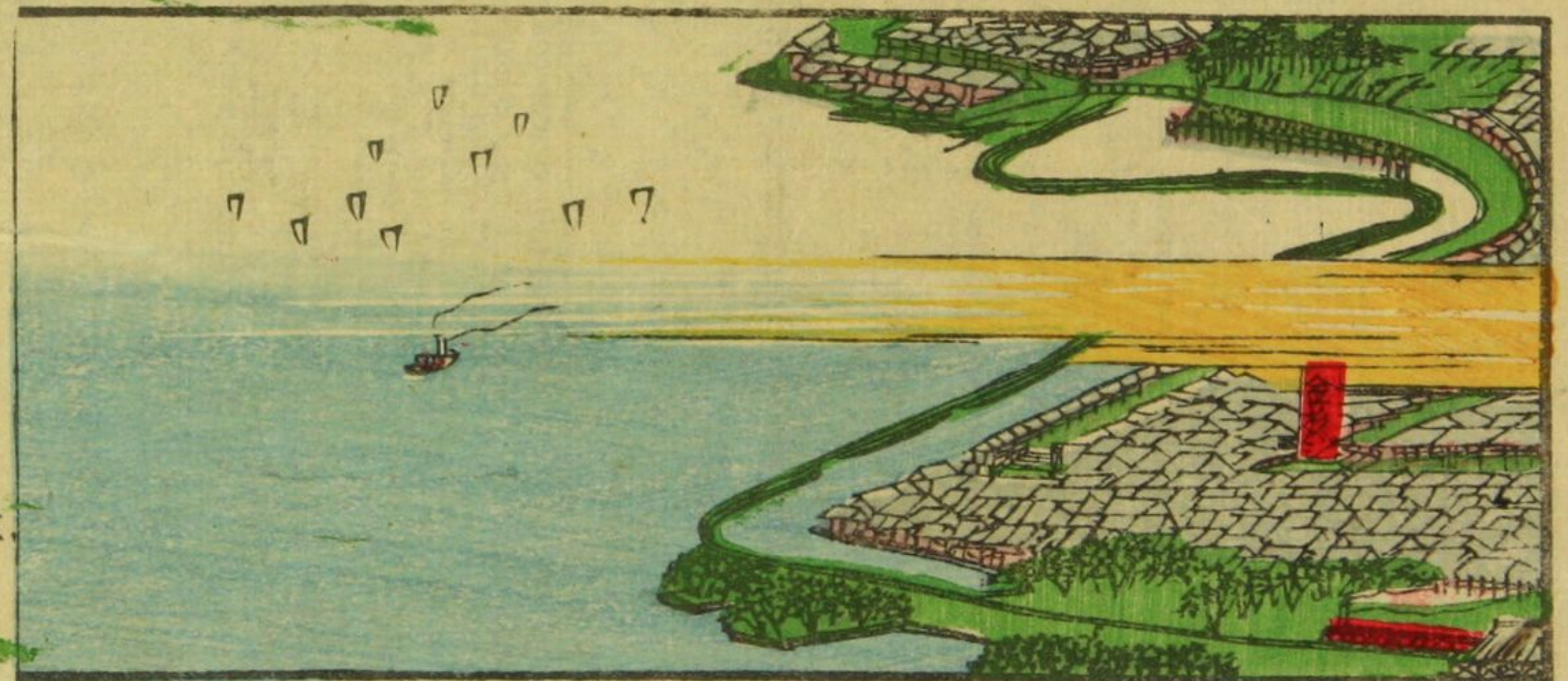
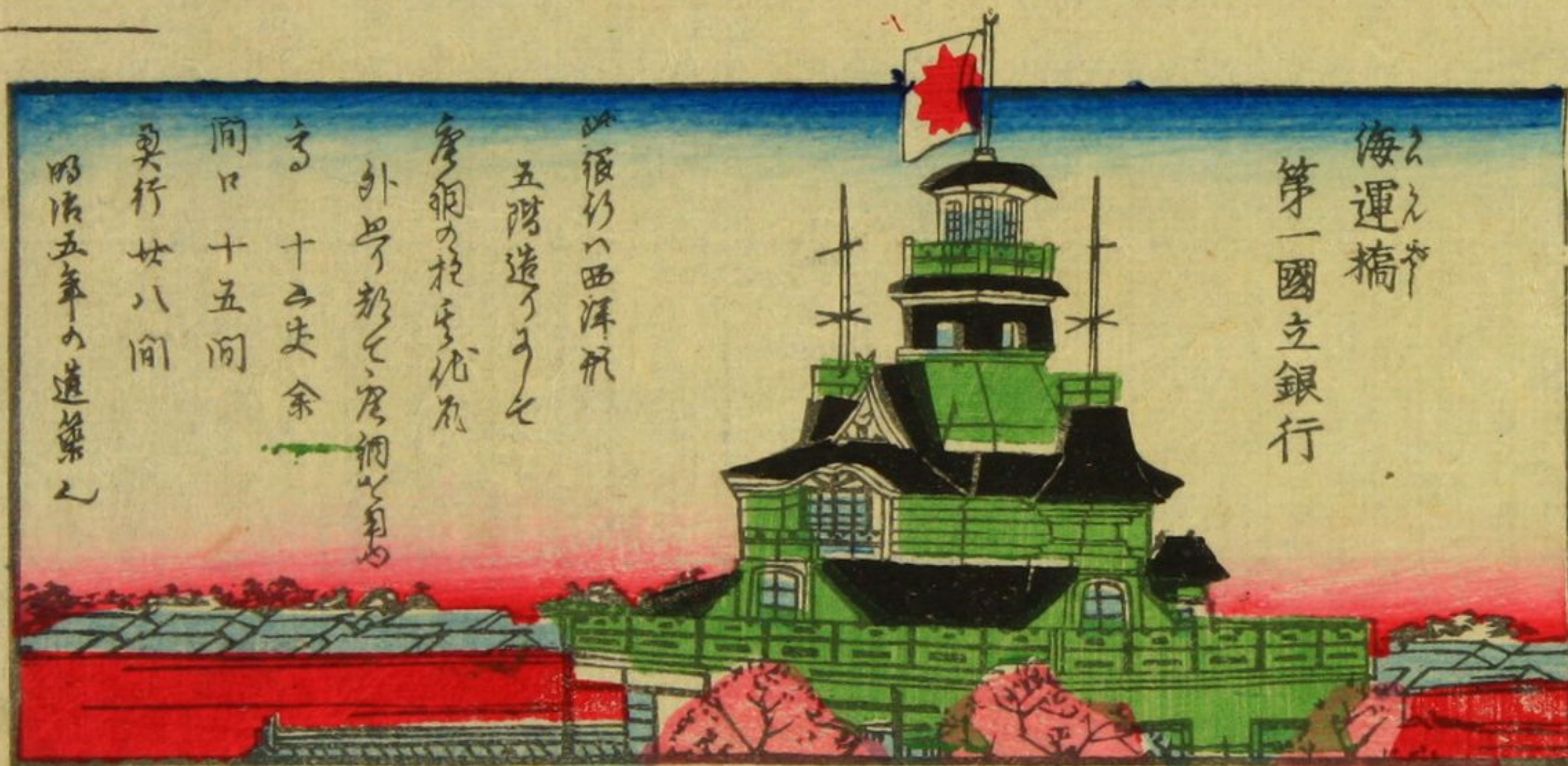
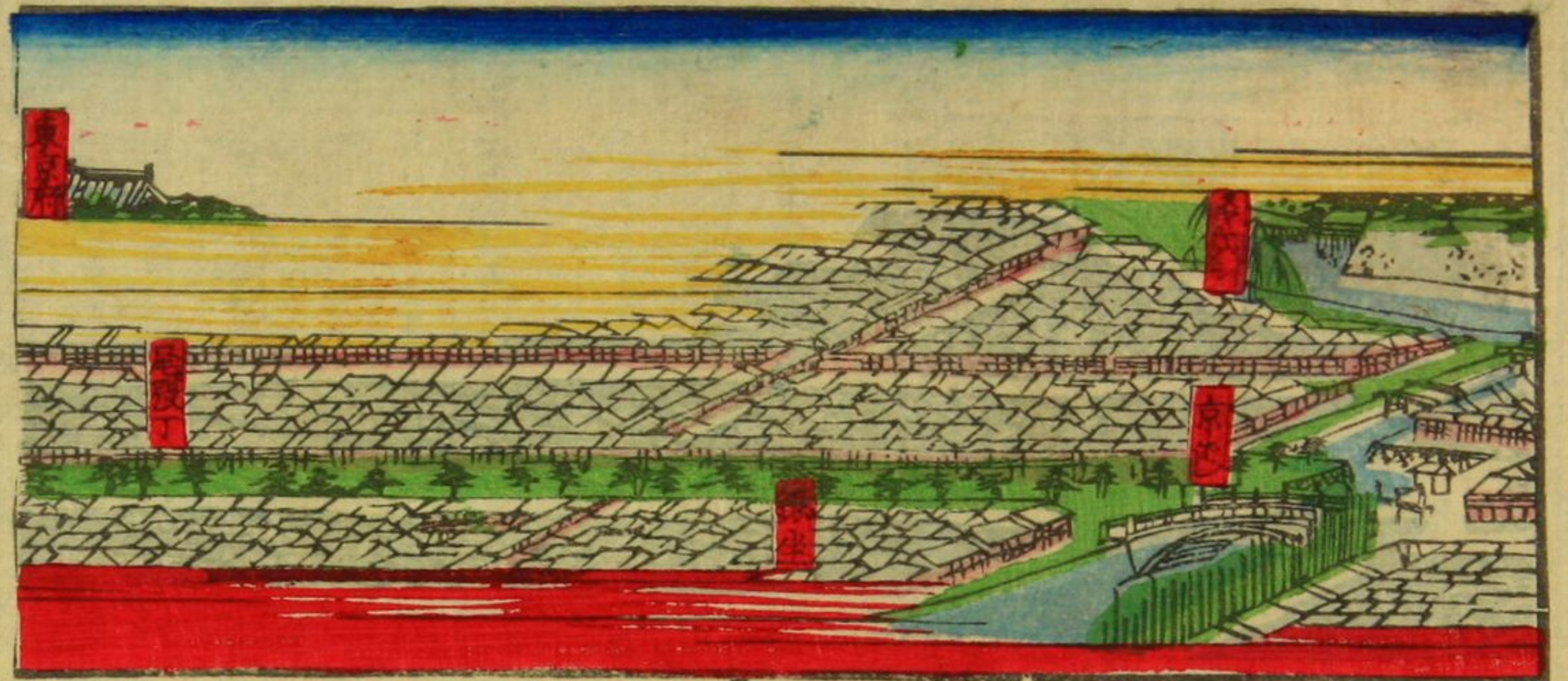
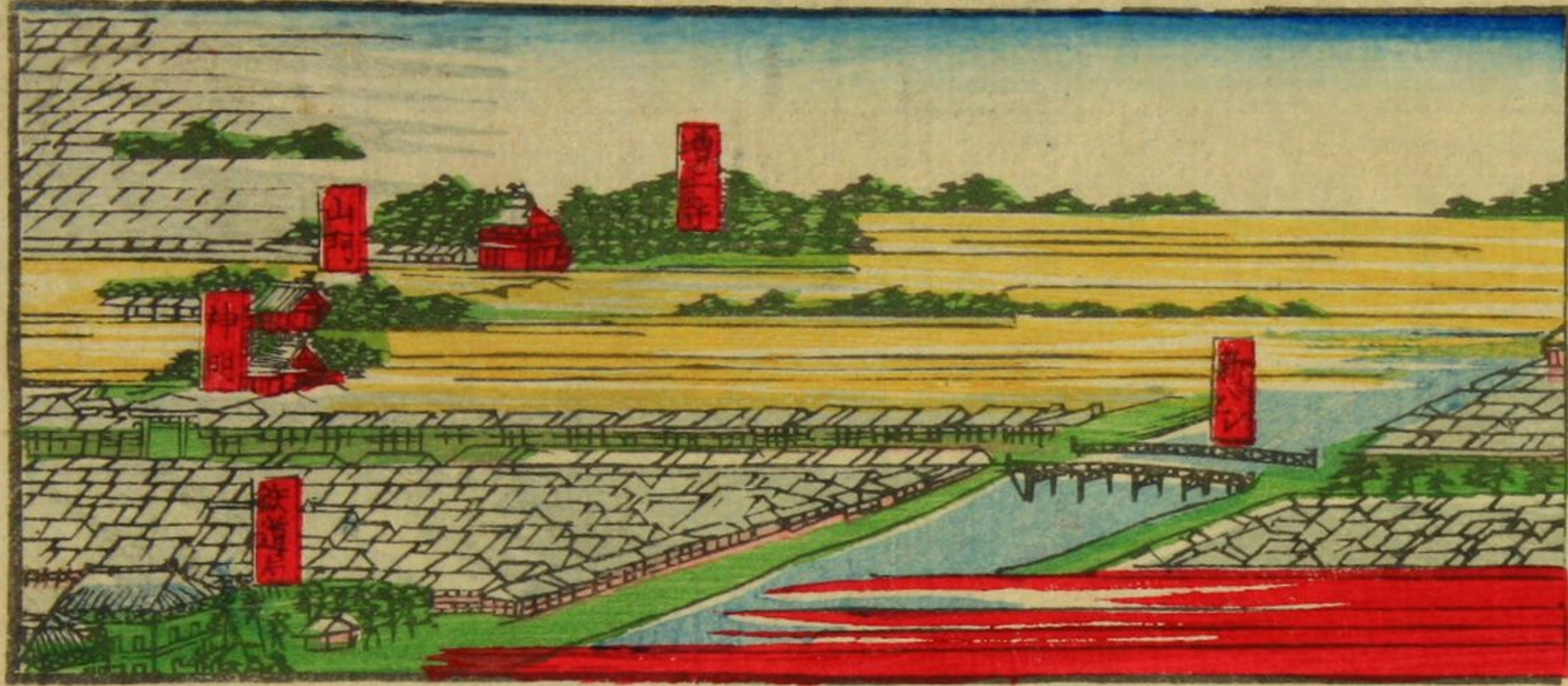
高 十二丈余

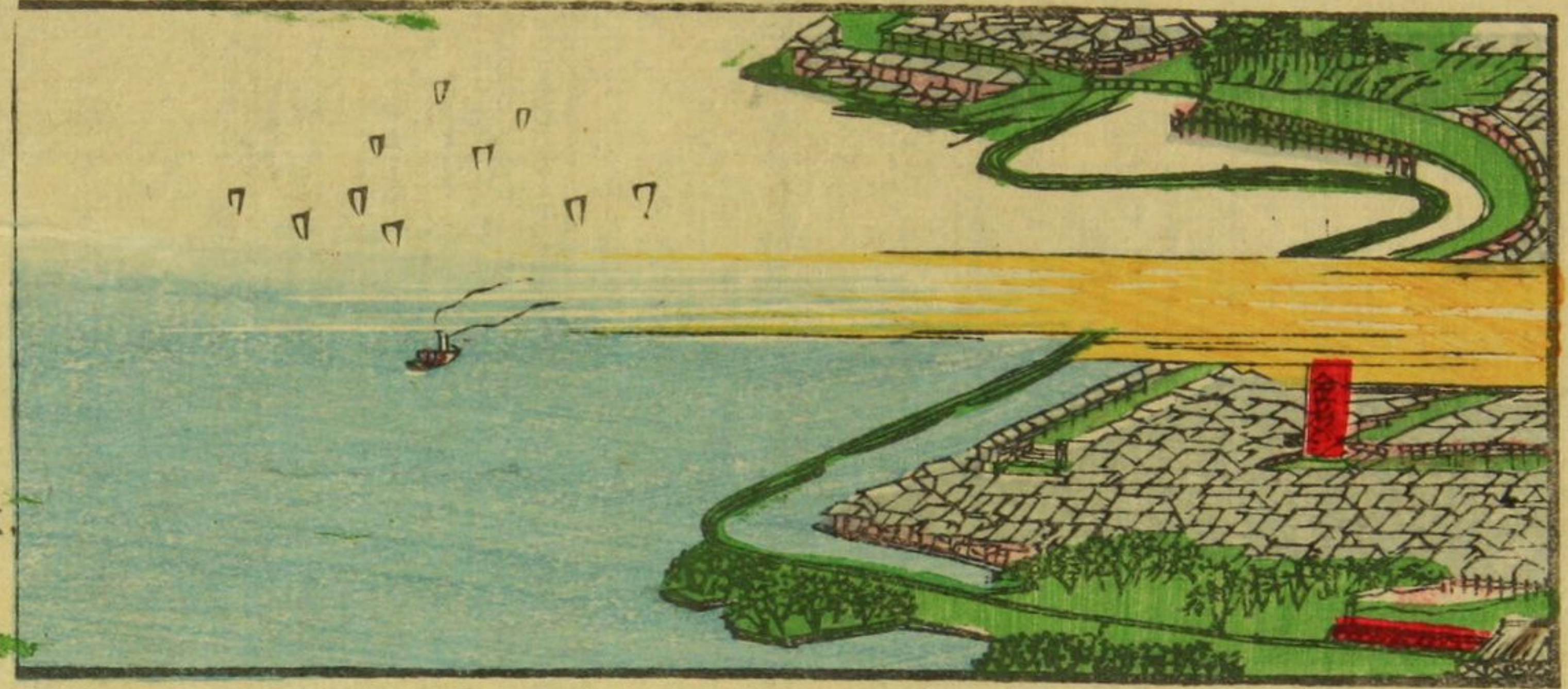
間口十五間

奥行廿八間

明治五年の建築也

五

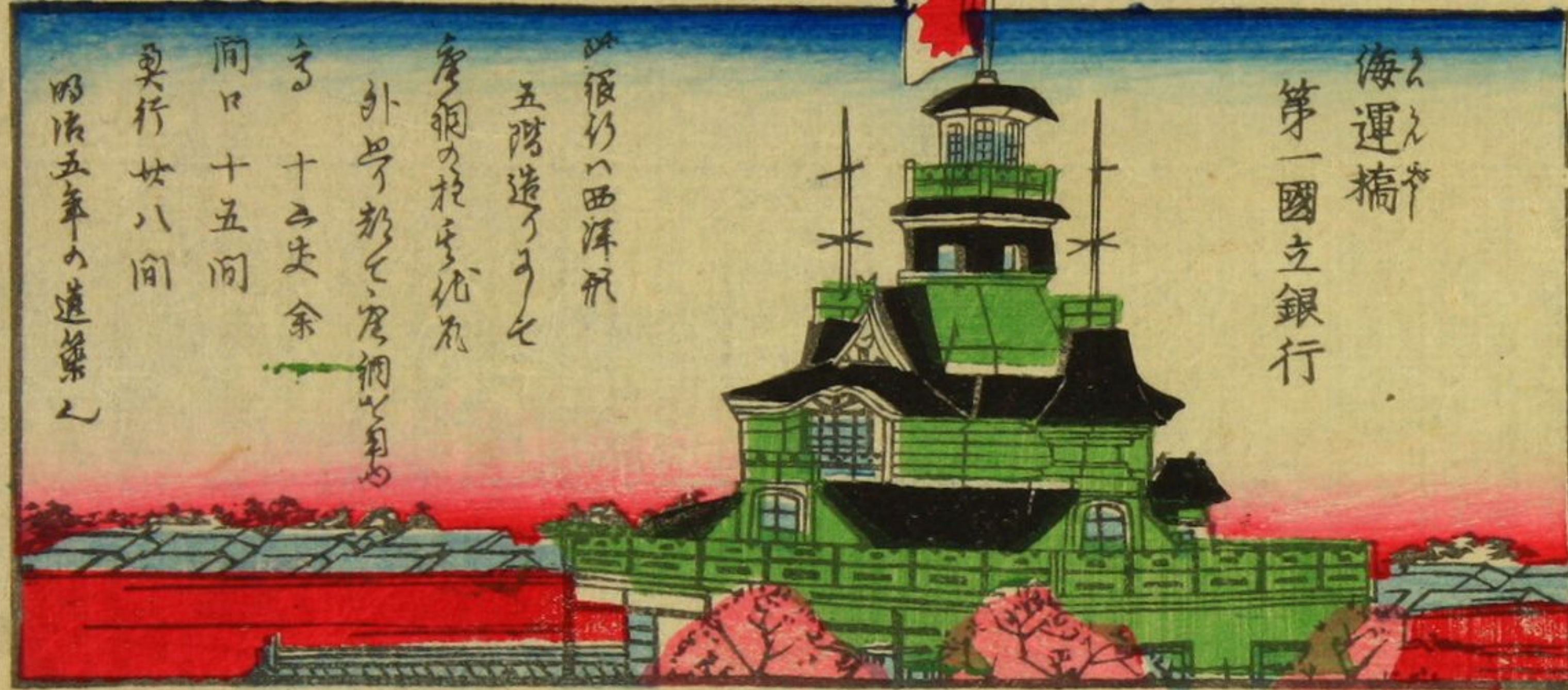




五

海運橋

第一國立銀行



以復仍の西洋航

五階造りあり

度朝の柱を伝

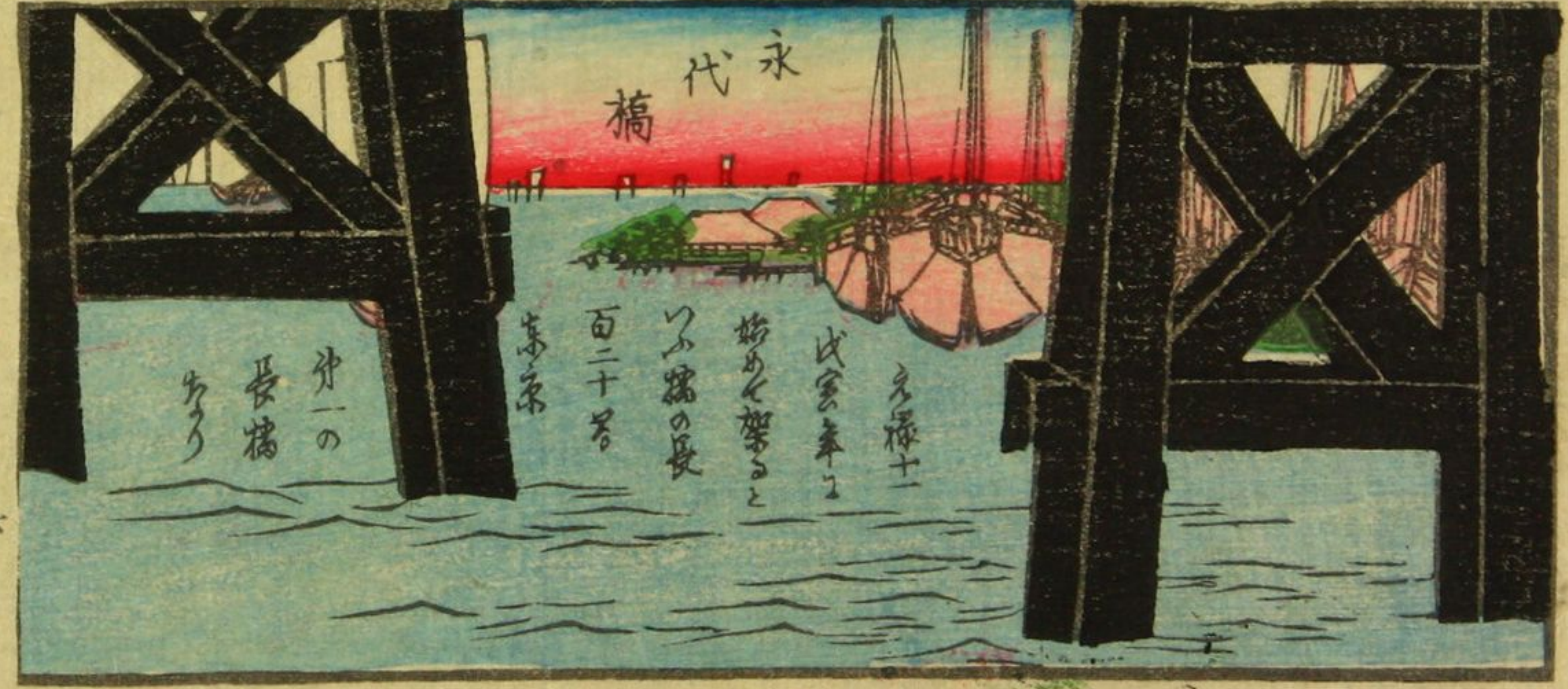
外号がたて度朝の角

あり 十二丈余

間口十五間

奥行廿八間

明治五年の建築也

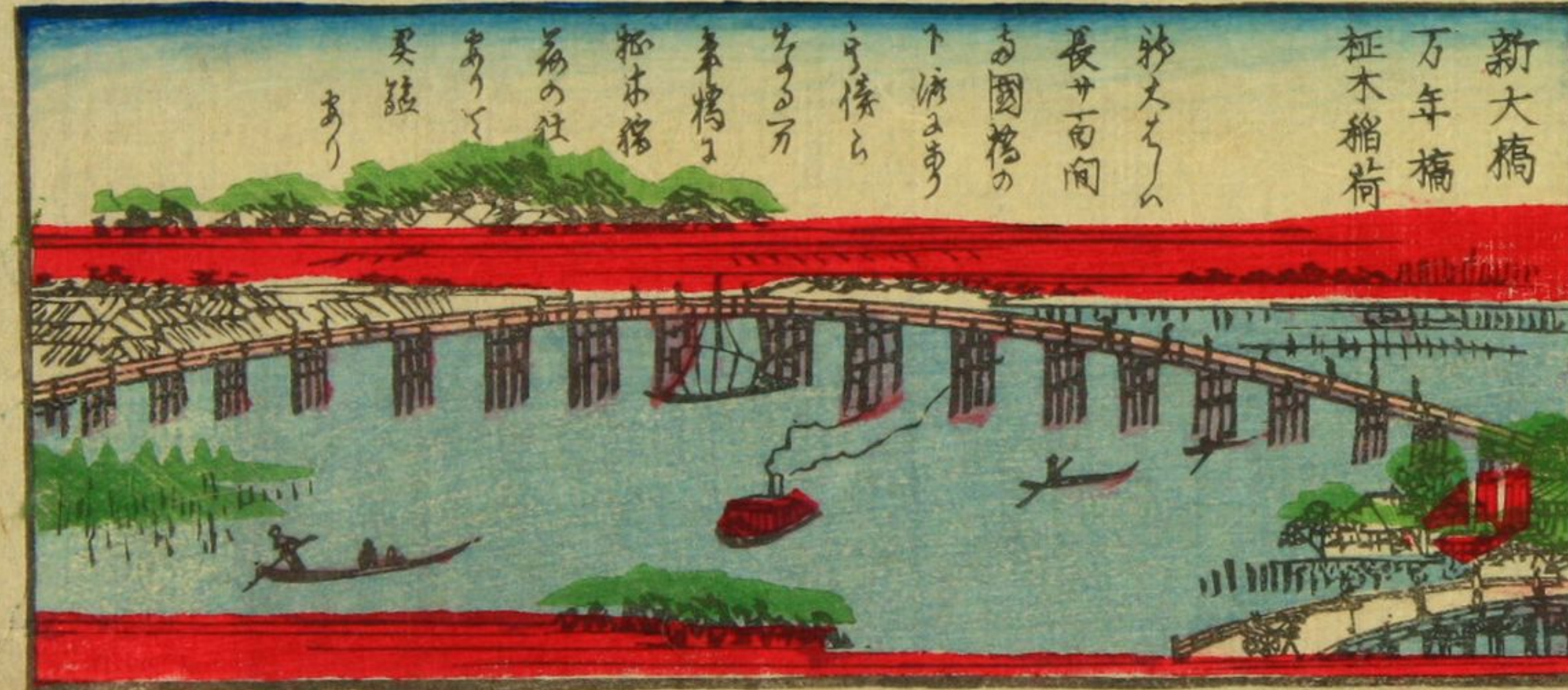


六

永代橋

此橋十一  
成金奉り  
始めに架ると  
つら橋の長  
百二十石  
高き

舟一の  
長橋  
あり



新大橋  
万年橋  
榎木船荷

妙大り  
長サ百間  
お國橋の  
下流より

より候

あり

本橋より

榎木船

船の往

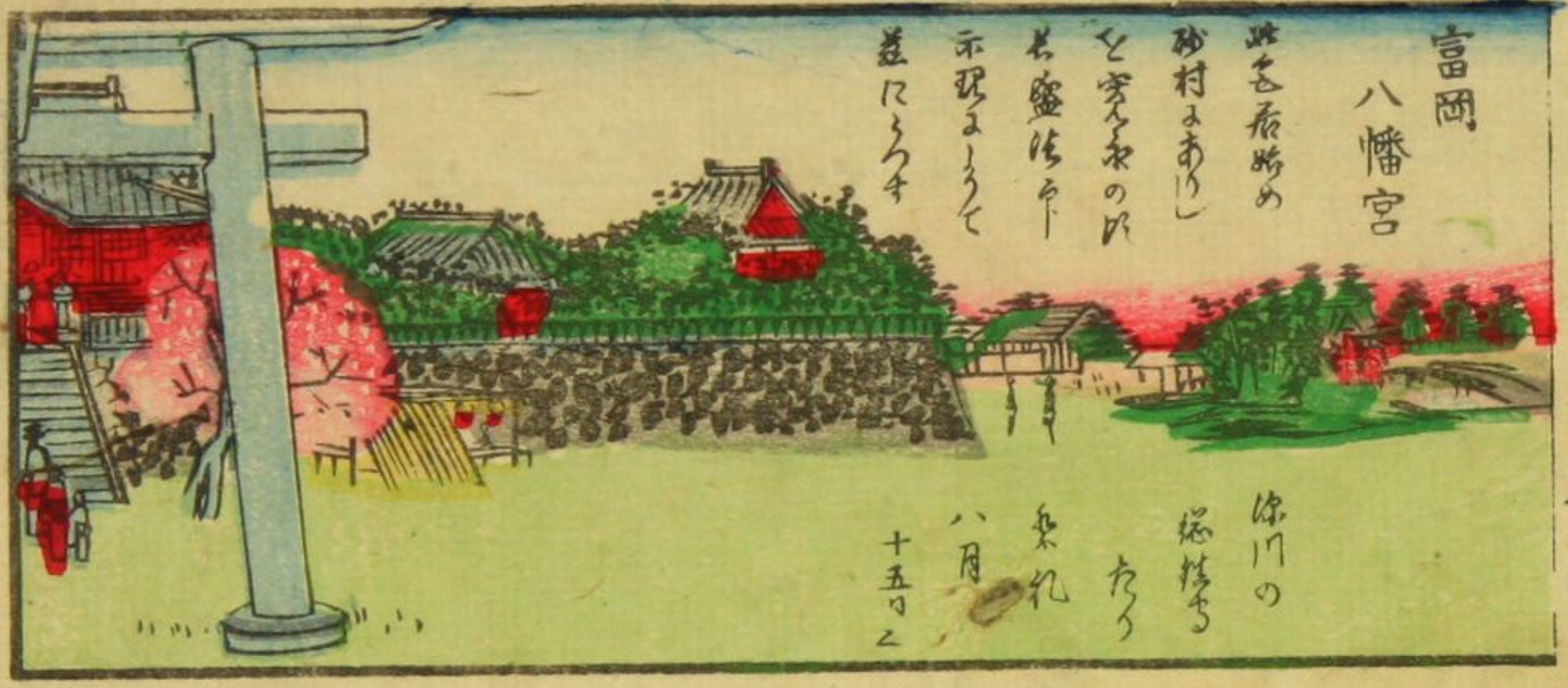
あり

要路

あり

七



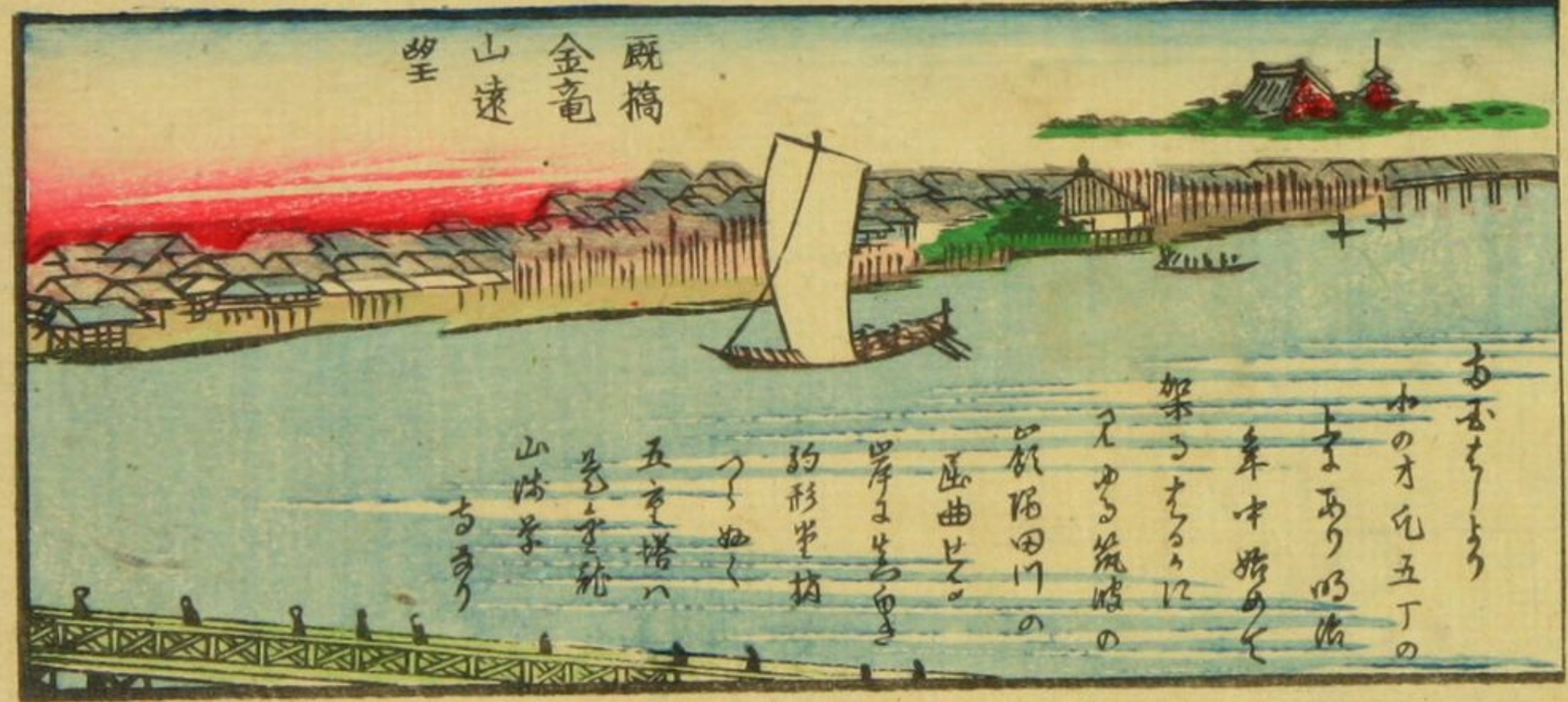


高岡  
八幡宮  
此を居始め  
砂村ありし  
と云ふ所の以  
長盛法中  
示現よりして  
益にらんす

保川の  
徳性寺  
たう  
奥札  
八月  
十五日

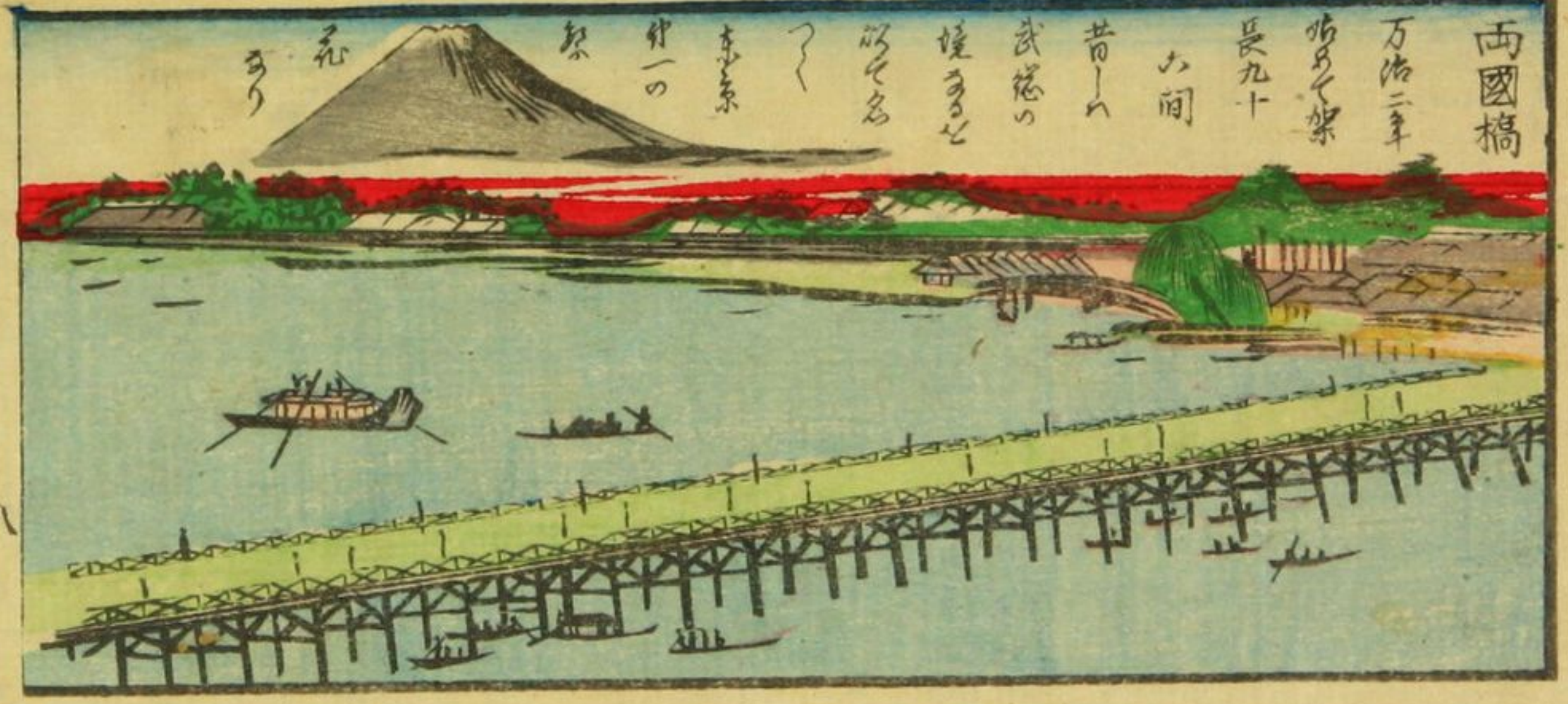


洲崎弁天  
元禄三年  
橋のつぎに  
後持院大僧  
小僧光  
赤天の宮居  
建る  
橋入  
群集  
す



既橋  
金竜  
山遠  
望

おまじりより  
かの才凡五丁の  
上よりあり  
舟中始めて  
架さるるに  
はねの橋の  
曲曲と  
岸より生る  
約形半橋  
つらぬ  
五重塔の  
山は  
おまじり



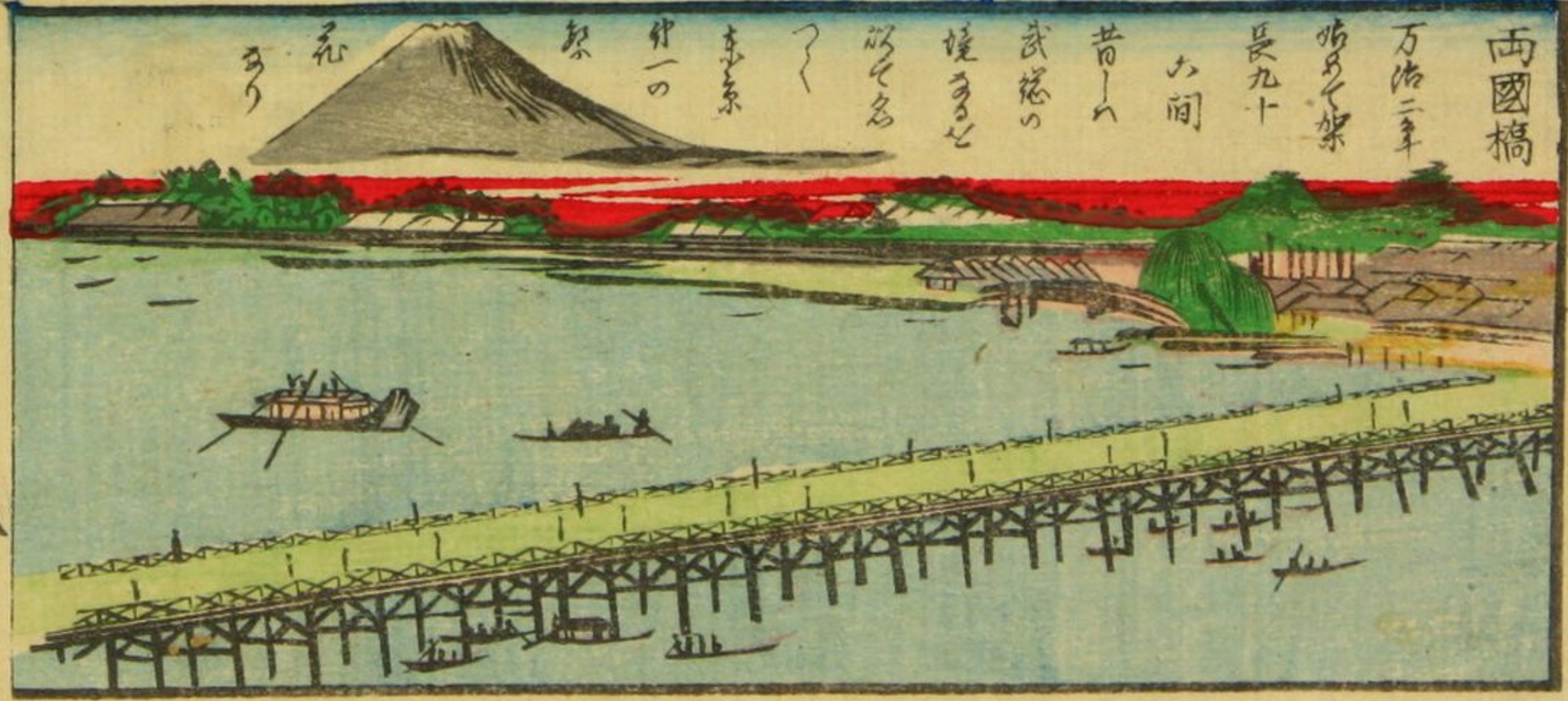
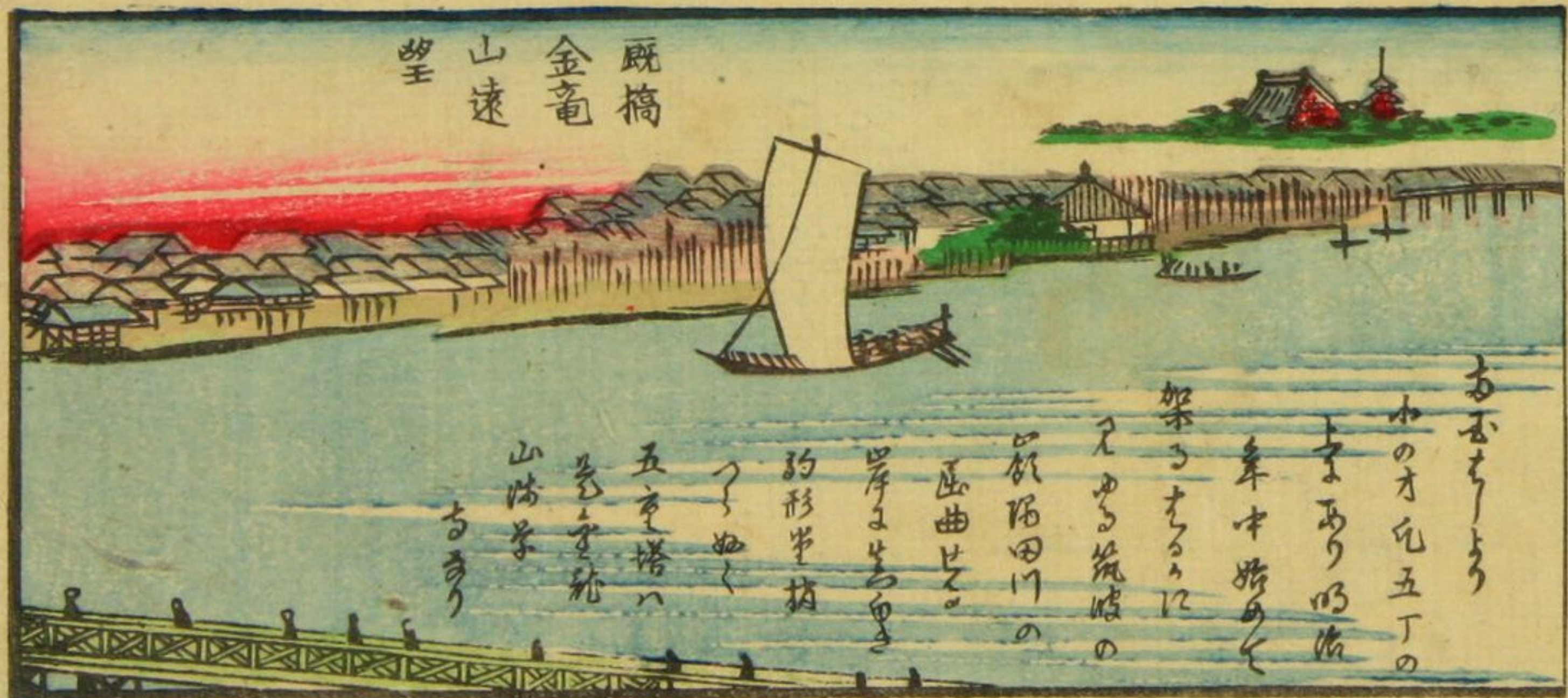
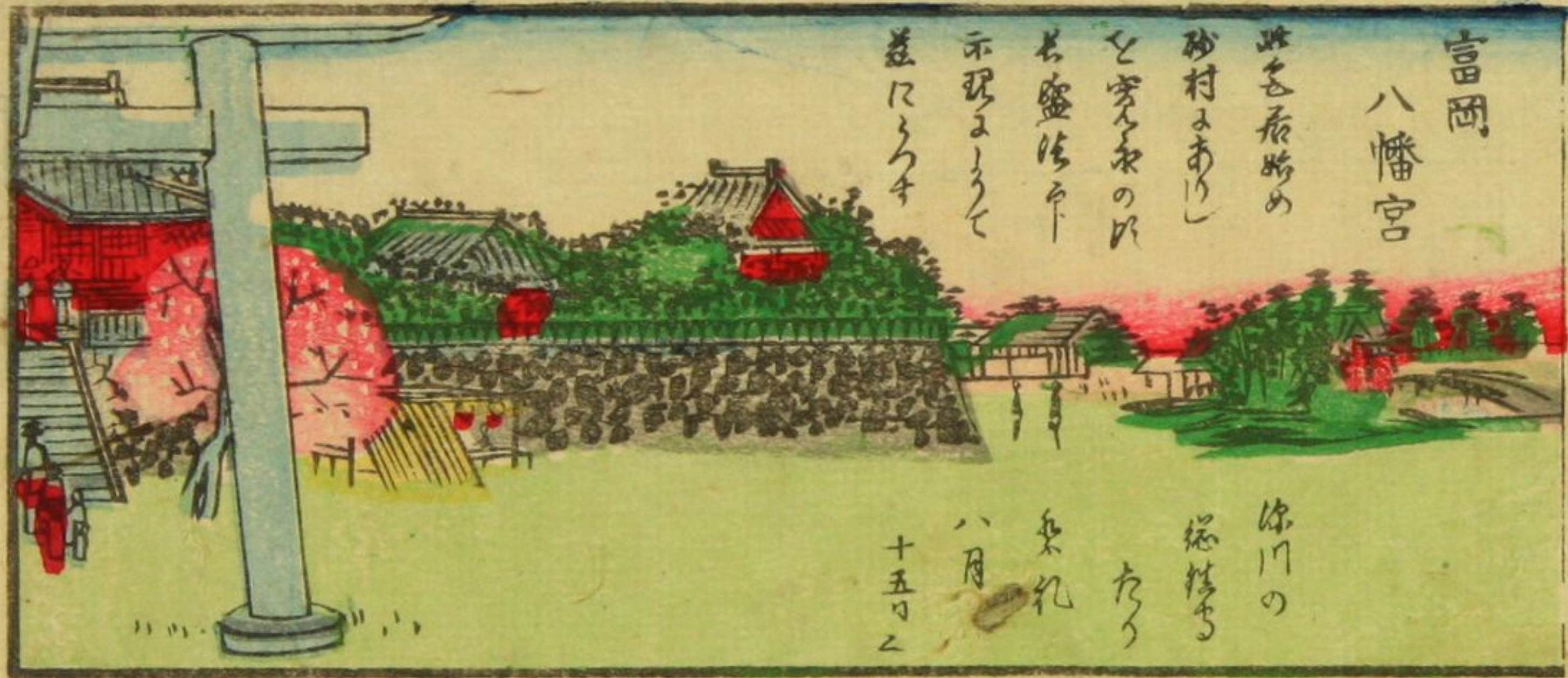
西國橋  
万治三年  
舟中架  
長九十  
六間  
昔人の  
武徳の  
煙草  
の  
赤糸  
舟の  
花  
さう



天満宮  
筑紫  
舟中架  
長九十  
六間  
昔人の  
武徳の  
煙草  
の  
赤糸  
舟の  
花  
さう

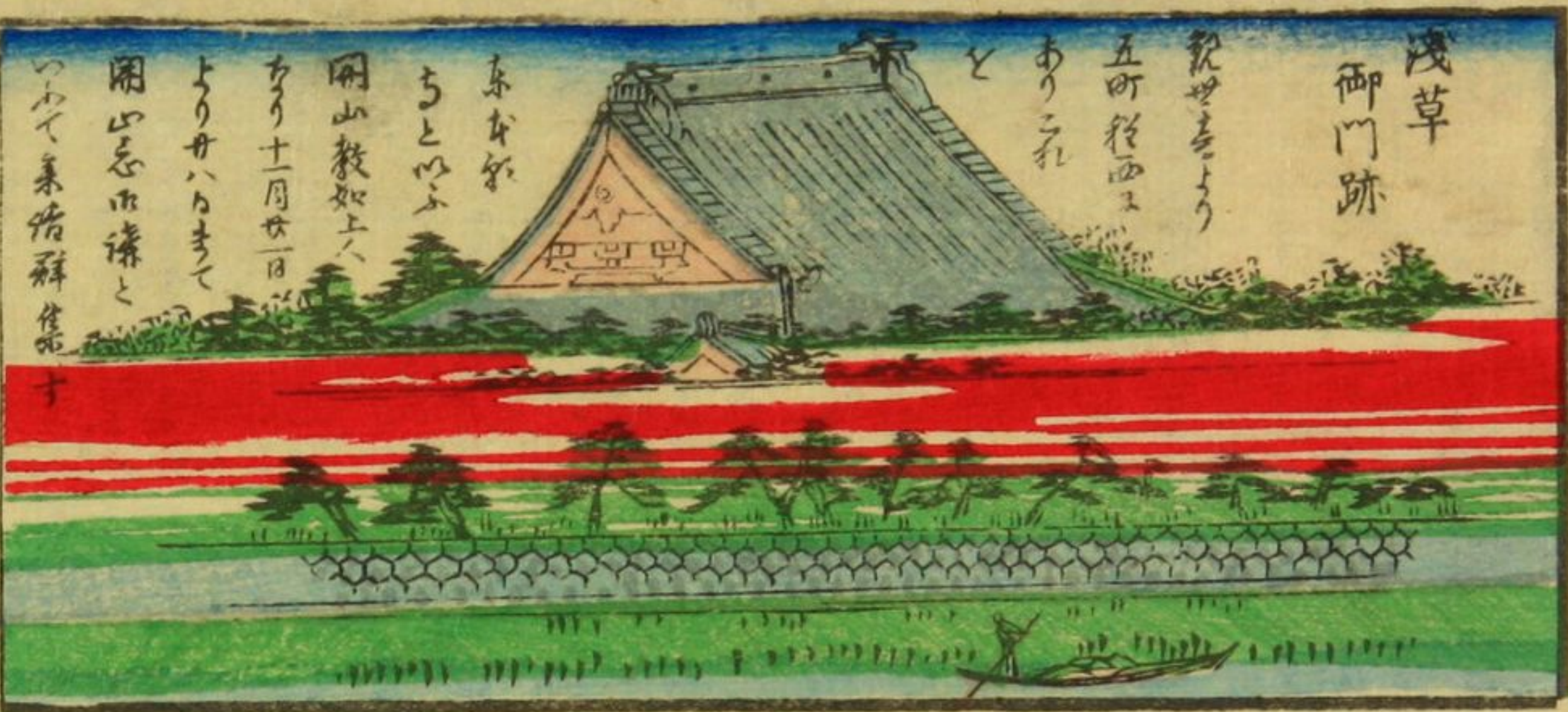


庭園  
舟中架  
長九十  
六間  
昔人の  
武徳の  
煙草  
の  
赤糸  
舟の  
花  
さう

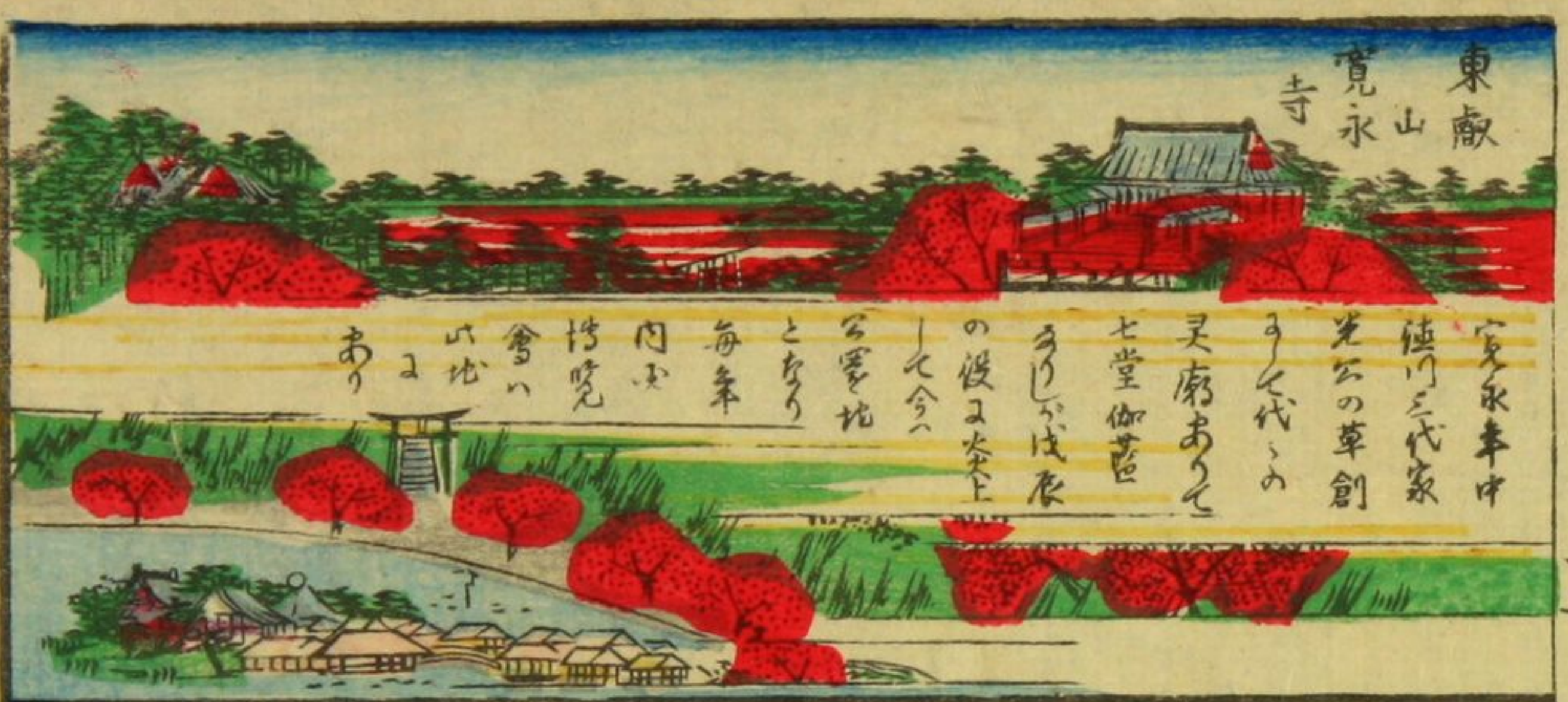




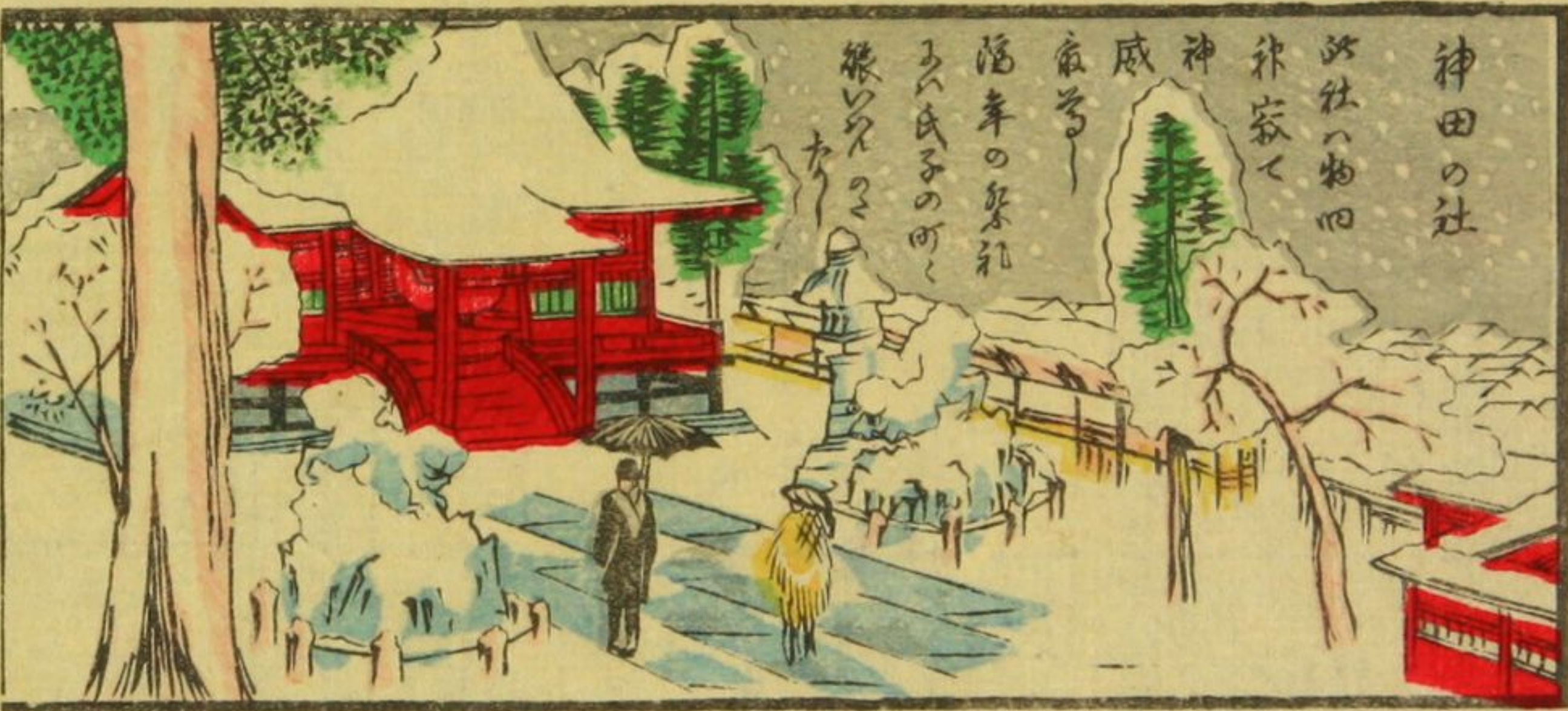




浅草 御門跡  
 五所程西よりありこれ  
 東が  
 ちとゆふ  
 岡山教如上人  
 あり十月廿日  
 より廿八日まで  
 岡山忘雨澤と  
 ついで来宿群集す



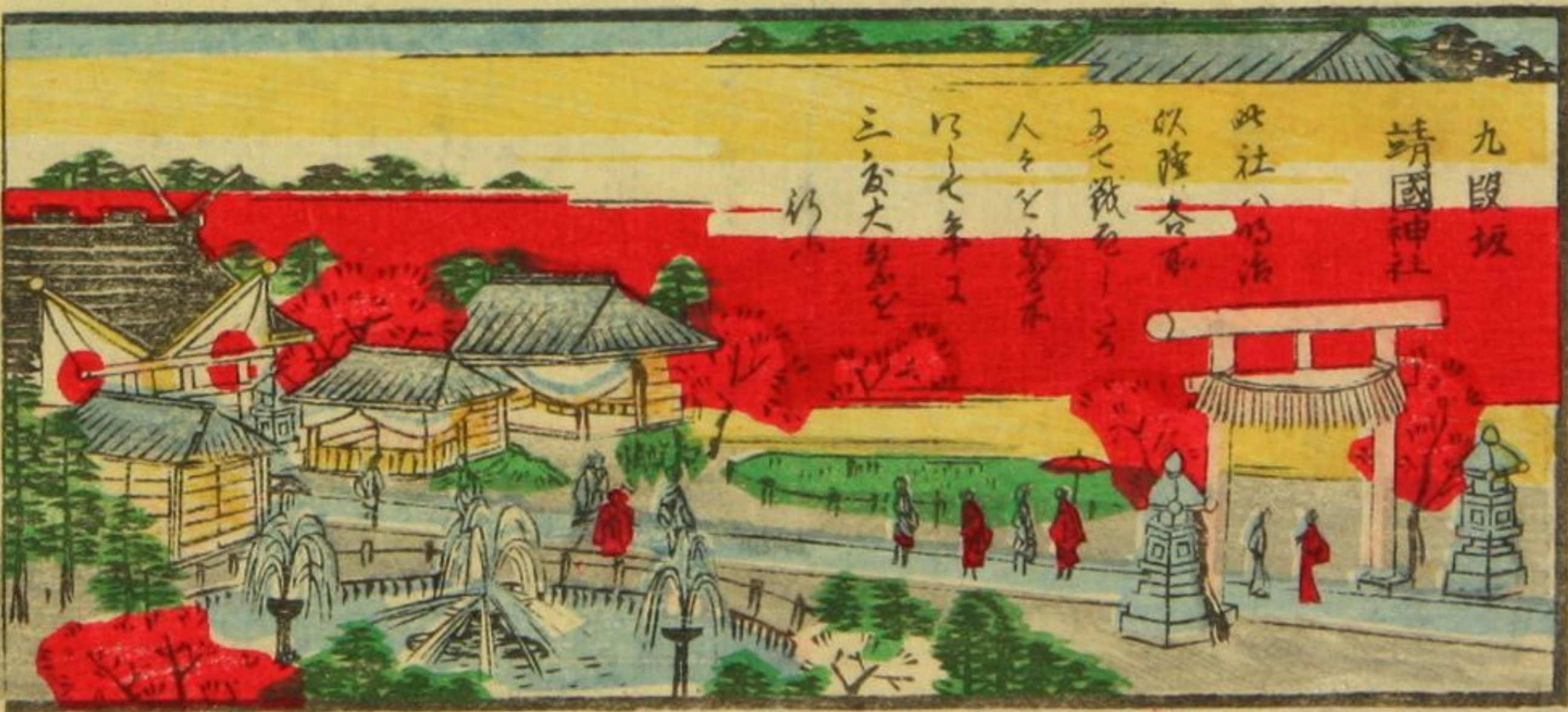
東山 寛永寺  
 寛永年中  
 徳川三代家  
 光公の草創  
 ありて代々の  
 灵廟ありて  
 七堂伽藍  
 ありては衣  
 の後又堂上  
 一七今へ  
 公堂地  
 とあり  
 毎年  
 内山  
 博覧  
 會ハ  
 山に  
 あり



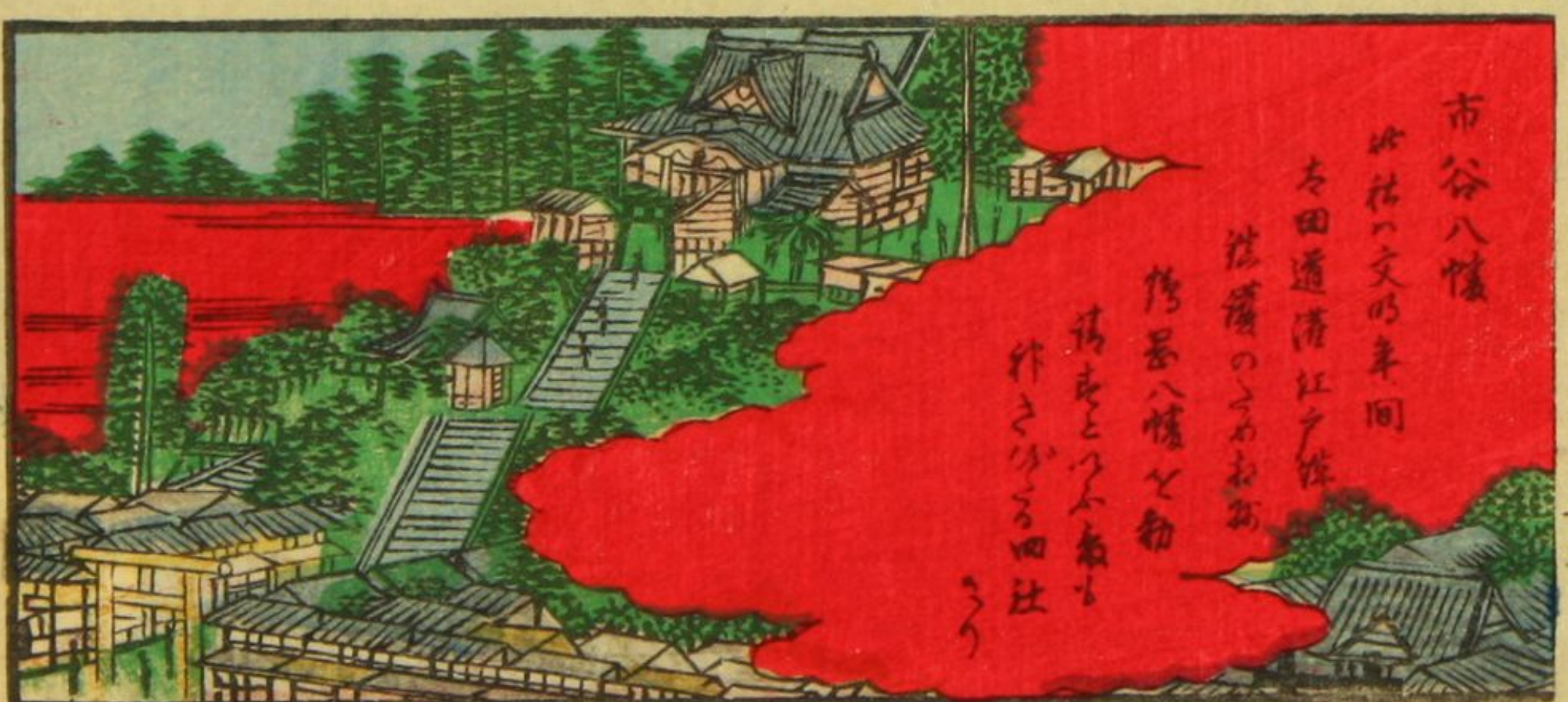
神田の社  
 此社ハ物四  
 社家々  
 神  
 威  
 最著  
 隔年の祭礼  
 五人氏子の可  
 儀ありて



万代橋  
 明治年中筋  
 遠留平の二橋  
 と稱し其中間  
 石と築んで架け  
 橋工服従者として  
 以て生原と稱記  
 局出張あり

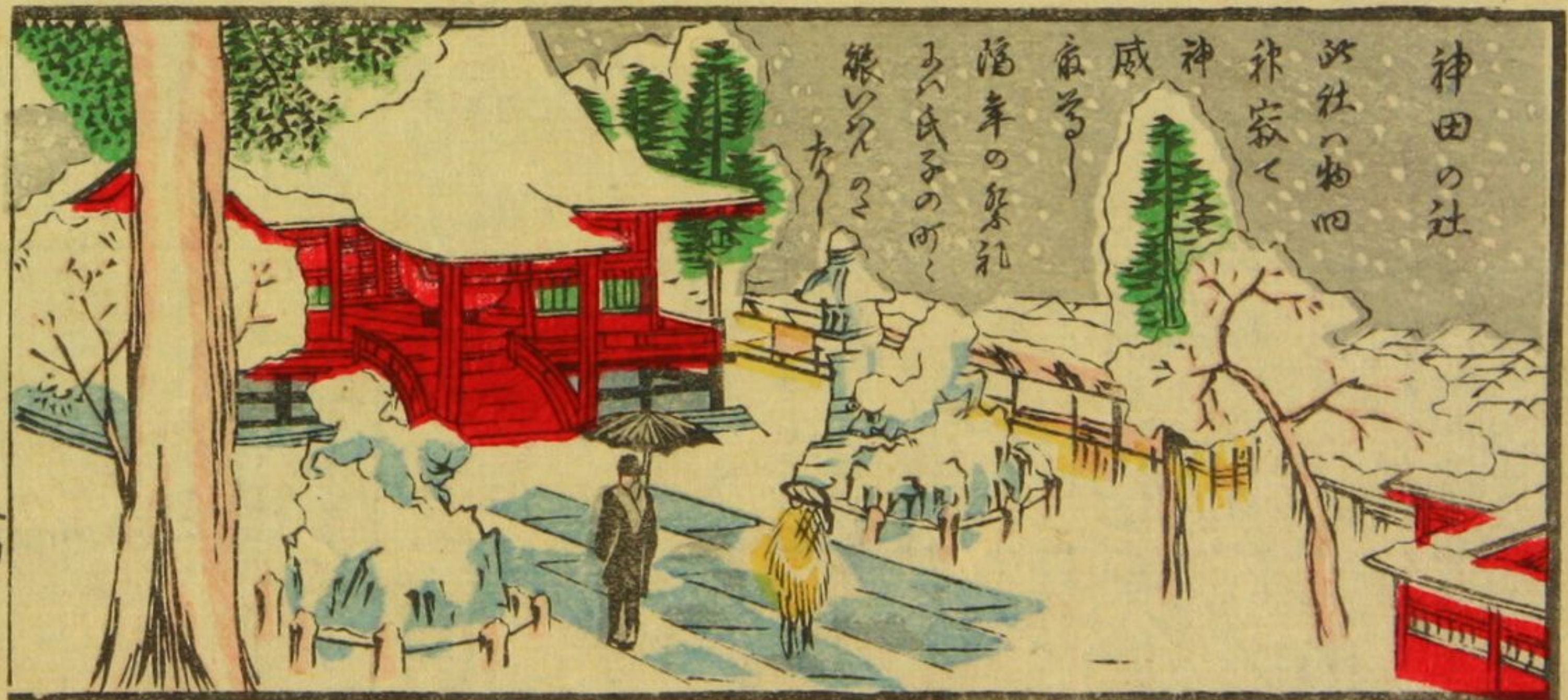
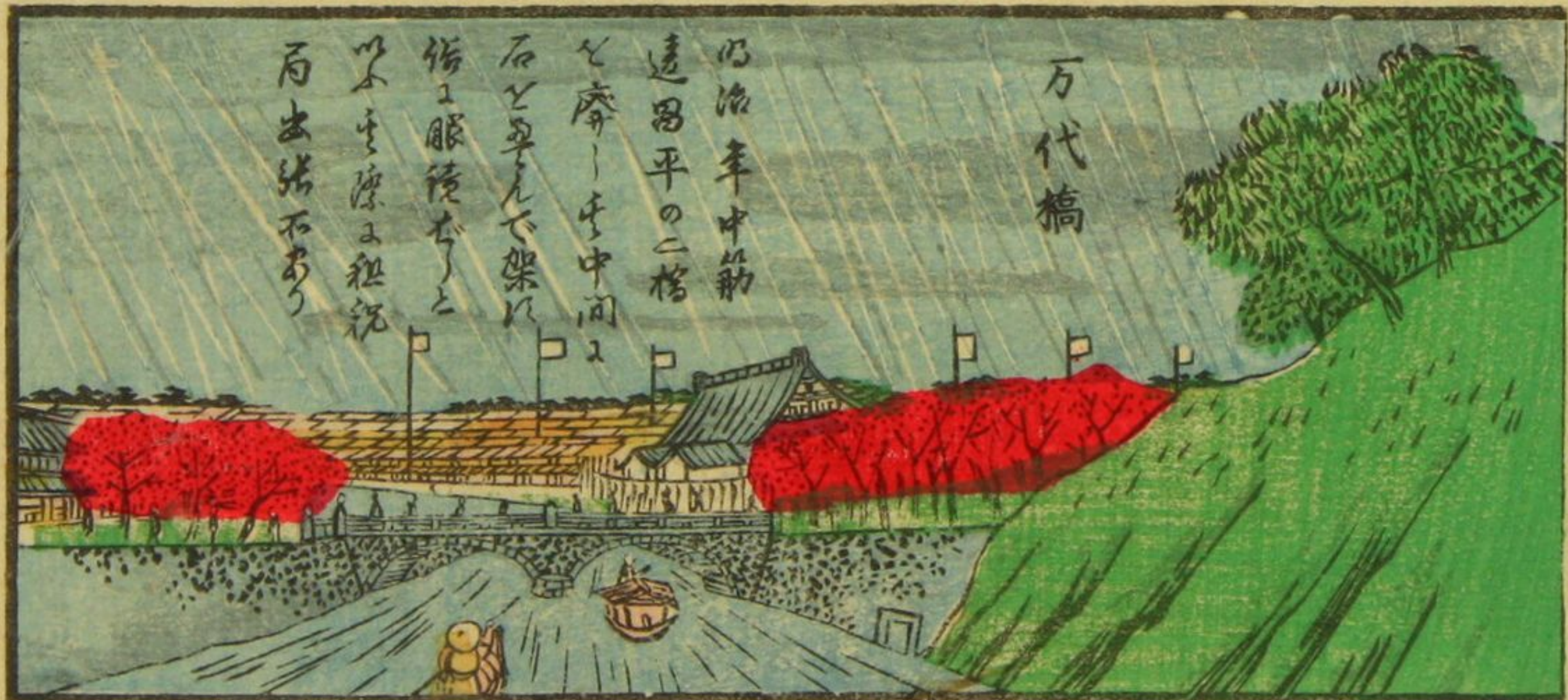
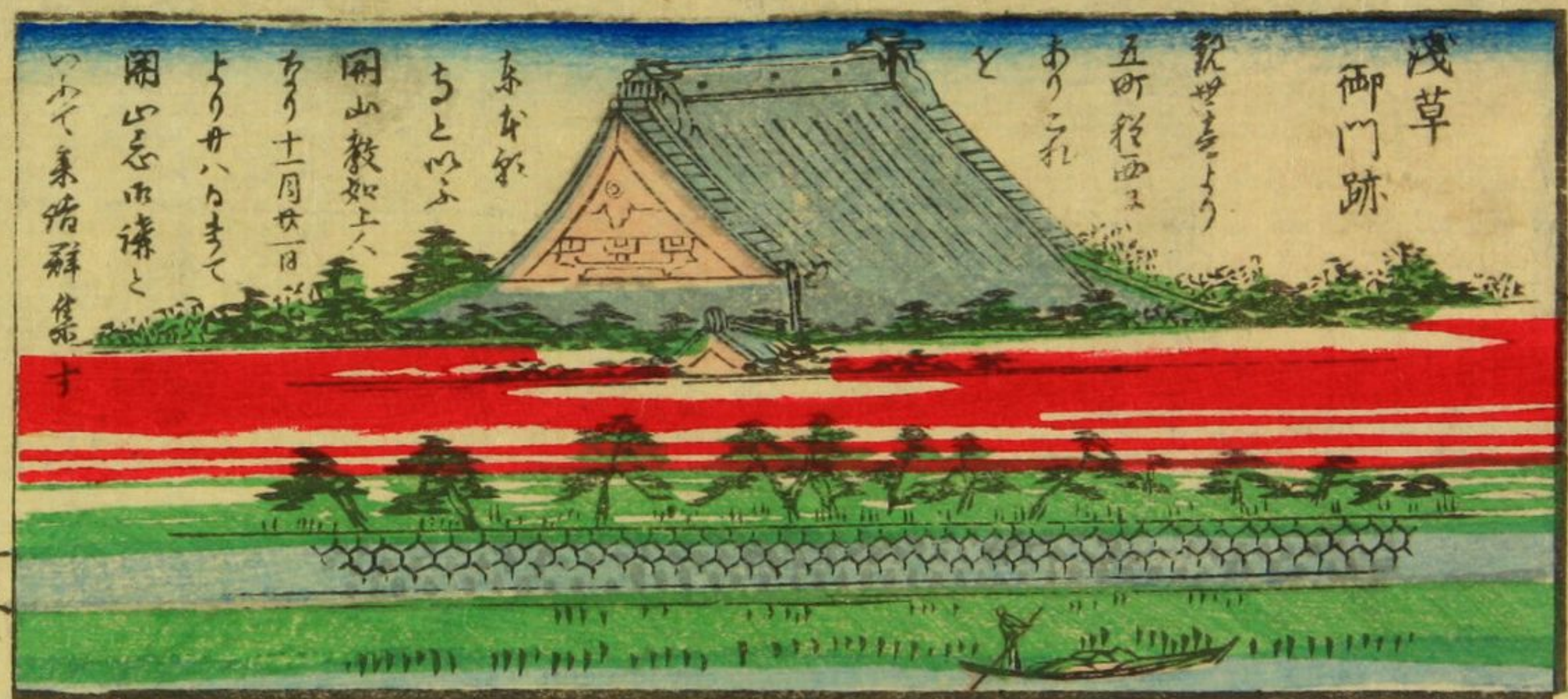
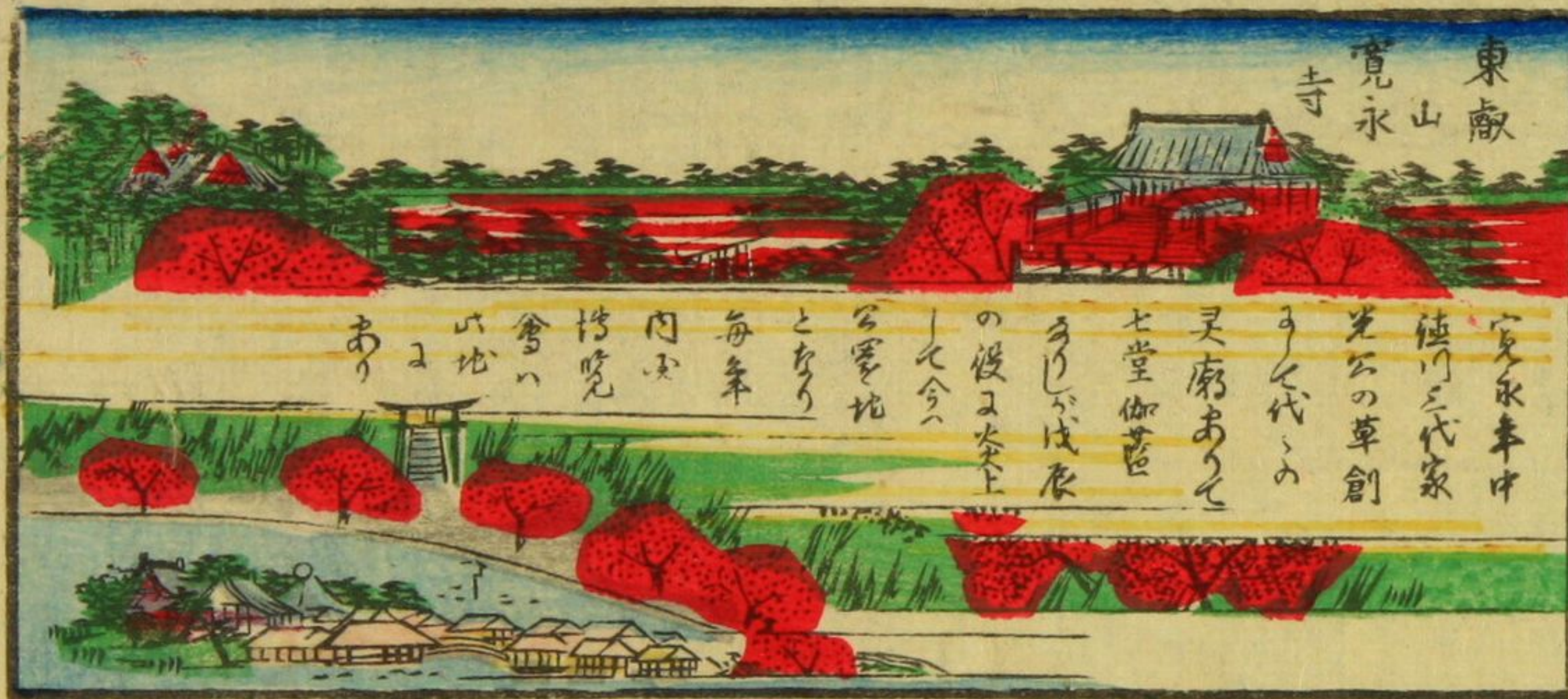


九段坂 靖國神社  
 此社ハ明治  
 以降  
 ありて  
 人々  
 以て七年  
 三宮大



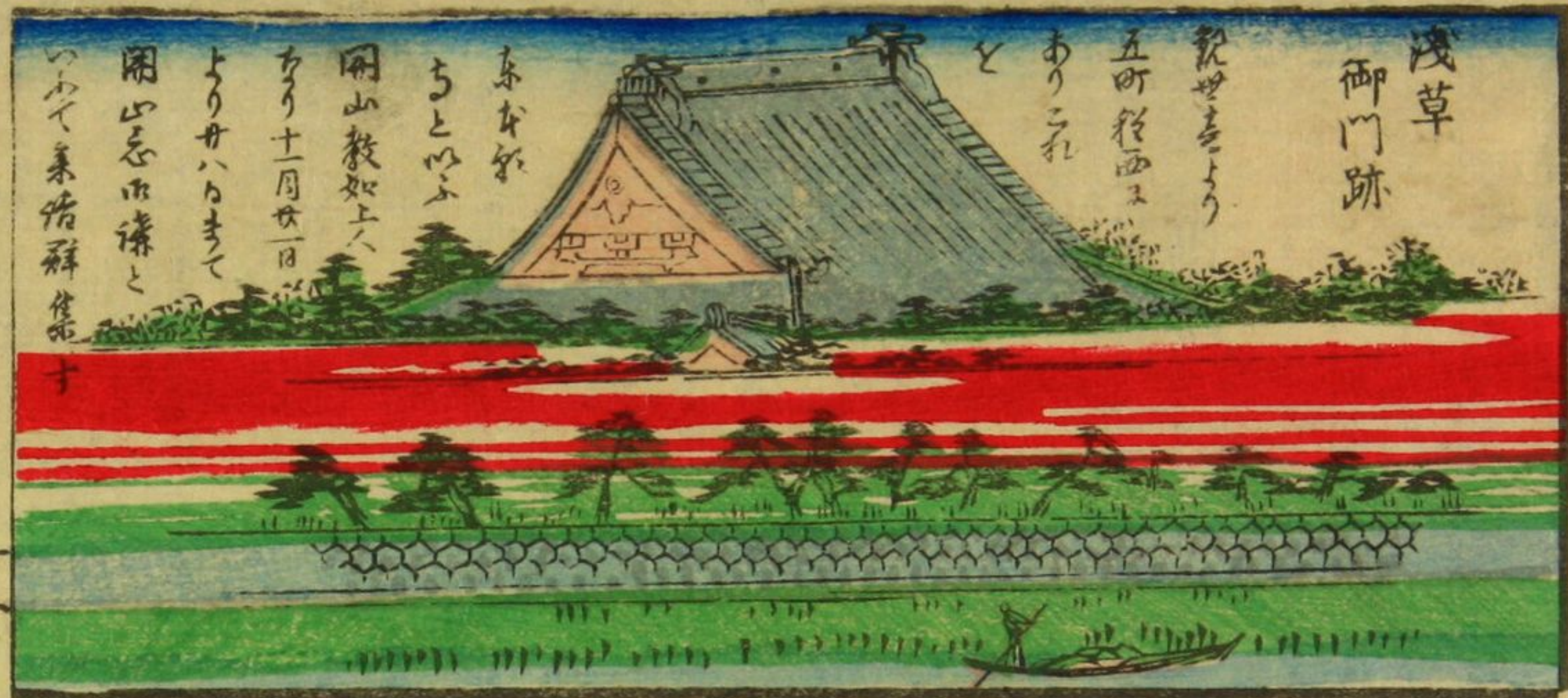
市谷八幡  
 此社ハ文の年間  
 左田道清江之儀  
 法橋のつらお  
 傳八幡と稱  
 其長とつらお  
 作さつらお社





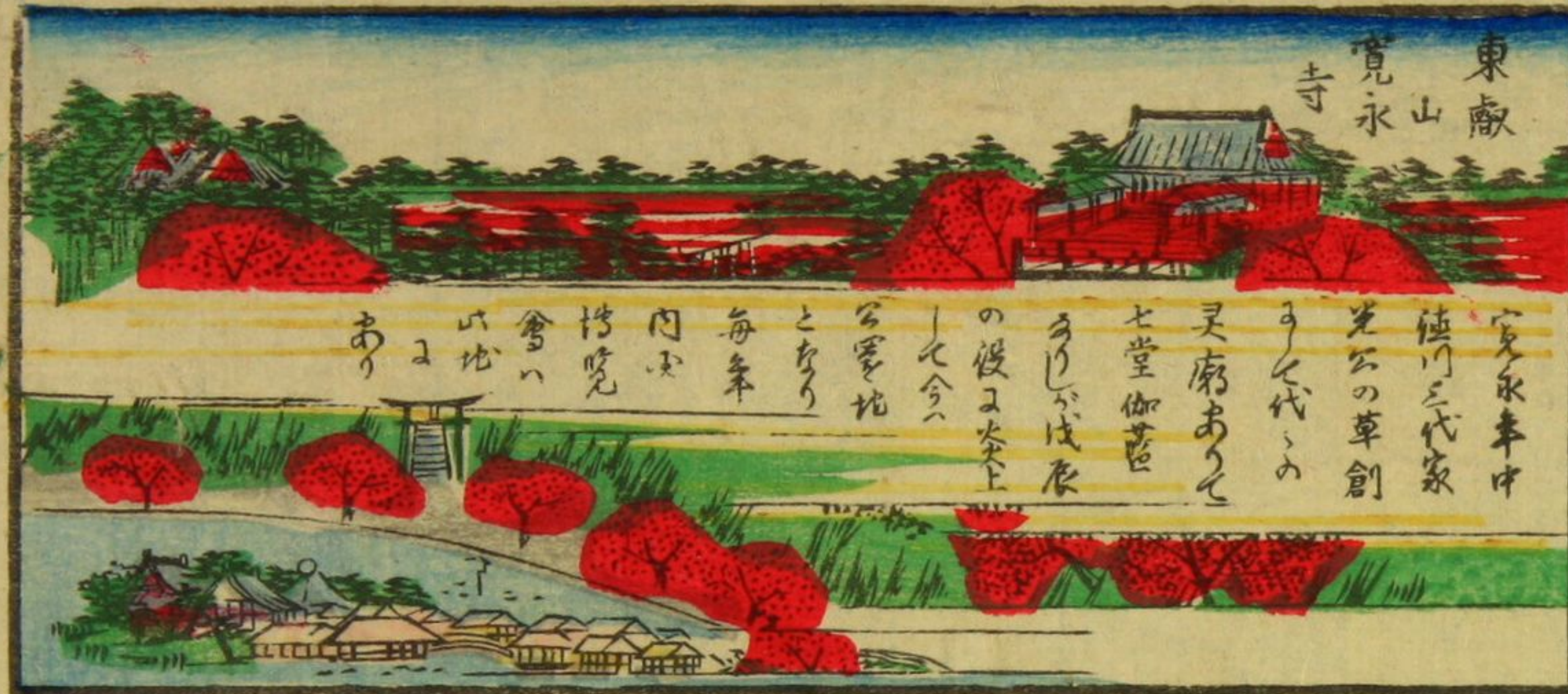
十三

十四



浅草 御門跡  
 親母より  
 五所程西  
 ありこれ  
 と  
 赤木  
 ちとゆふ  
 岡山教如上人  
 あり十月廿日  
 より廿八日まで  
 岡山志水講と  
 いて兼清群集す

十三



東叡 山 寛永 寺  
 寛永年中  
 徳川三代家  
 光公の草創  
 ちて代々の  
 又廟ありて  
 七堂伽藍  
 ありは成衣  
 の役又堂上  
 一七今へ  
 公堂地  
 となり  
 毎年  
 内  
 博覧  
 舎の  
 此地  
 あり

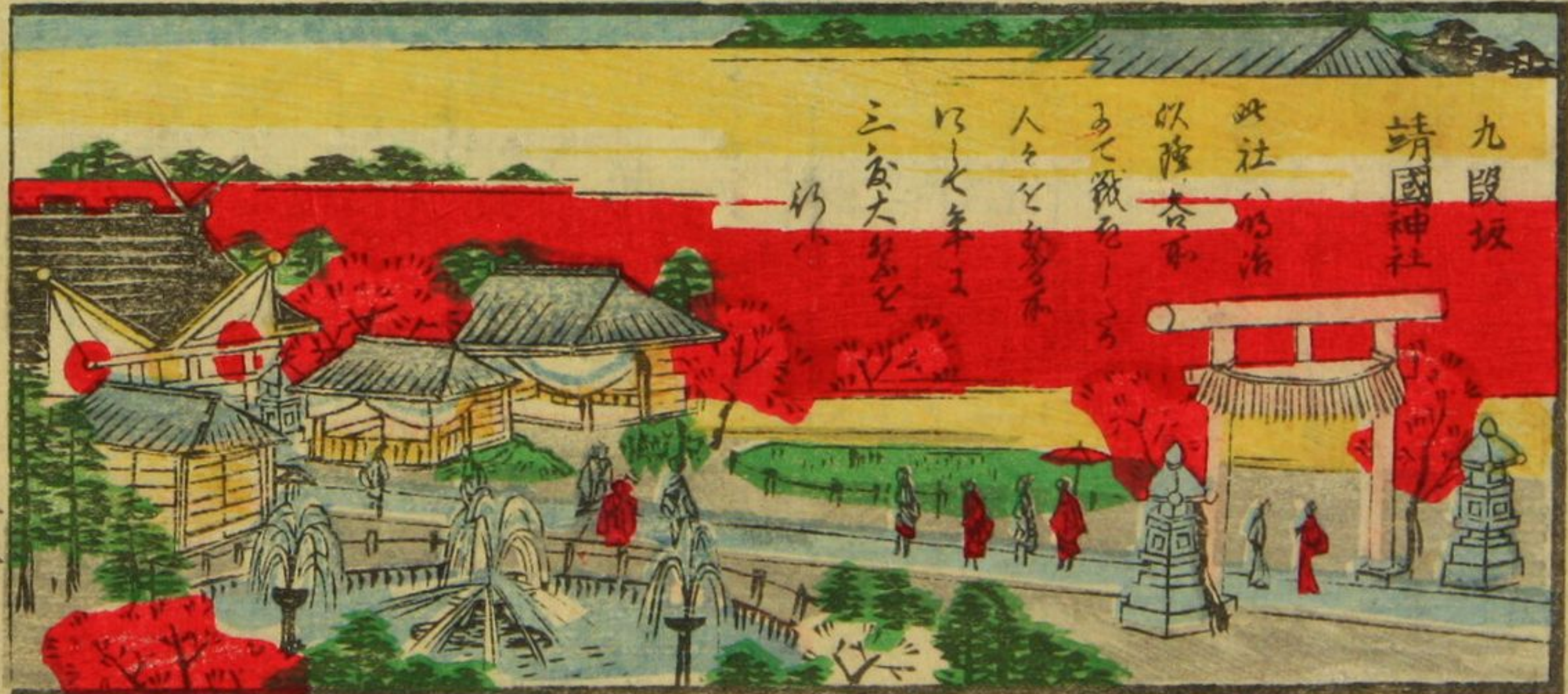


神田の社  
 此社の物四  
 社家  
 神  
 威  
 威  
 福幸の祭礼  
 五氏子の町  
 縁の町

十四

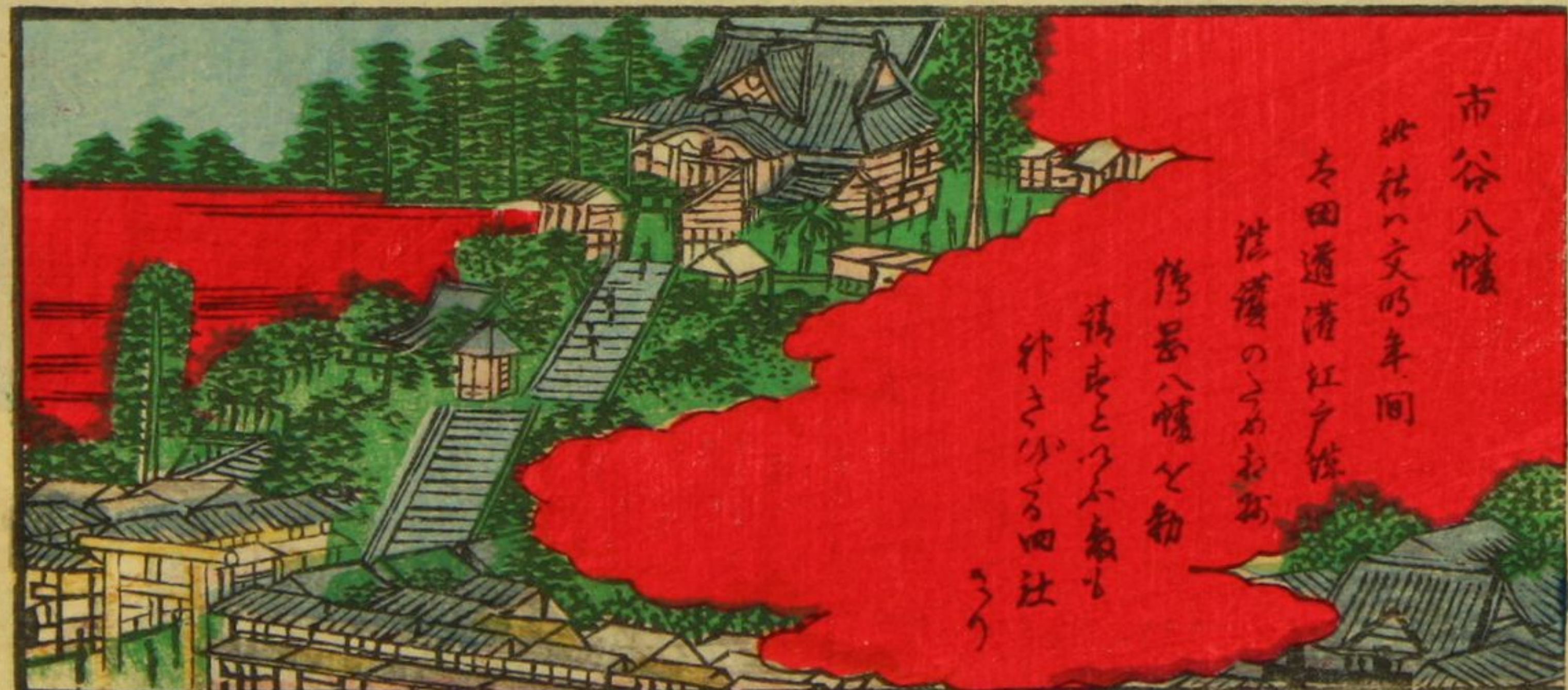


万代橋  
 明治年中筋  
 透留平の二橋  
 と齊し中間  
 石と架りて架り  
 橋に腰鏡ありと  
 以て生原と親祝  
 局出張あり

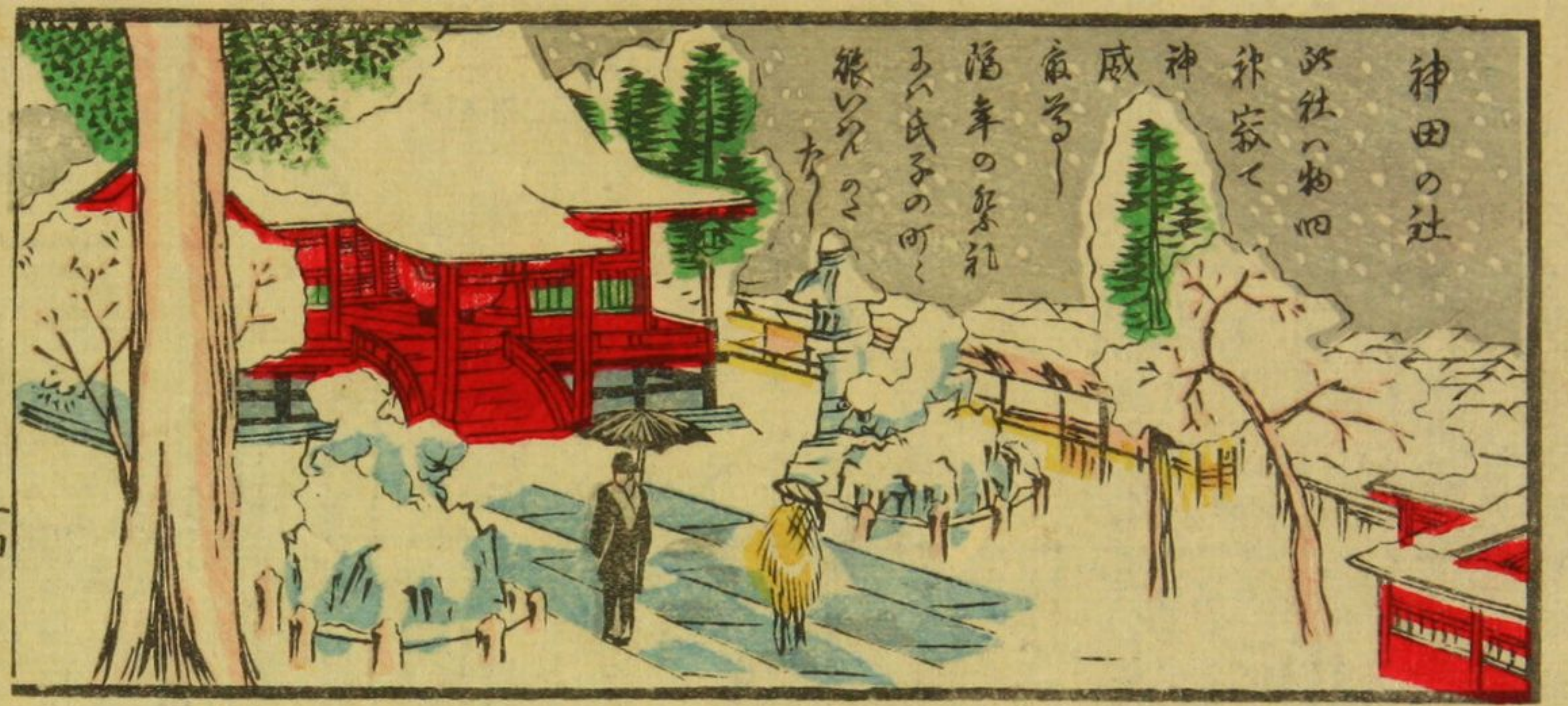


九段坂 靖國神社  
 此社の治  
 以降各  
 五之儀あり  
 人々を  
 以て七年  
 三食大

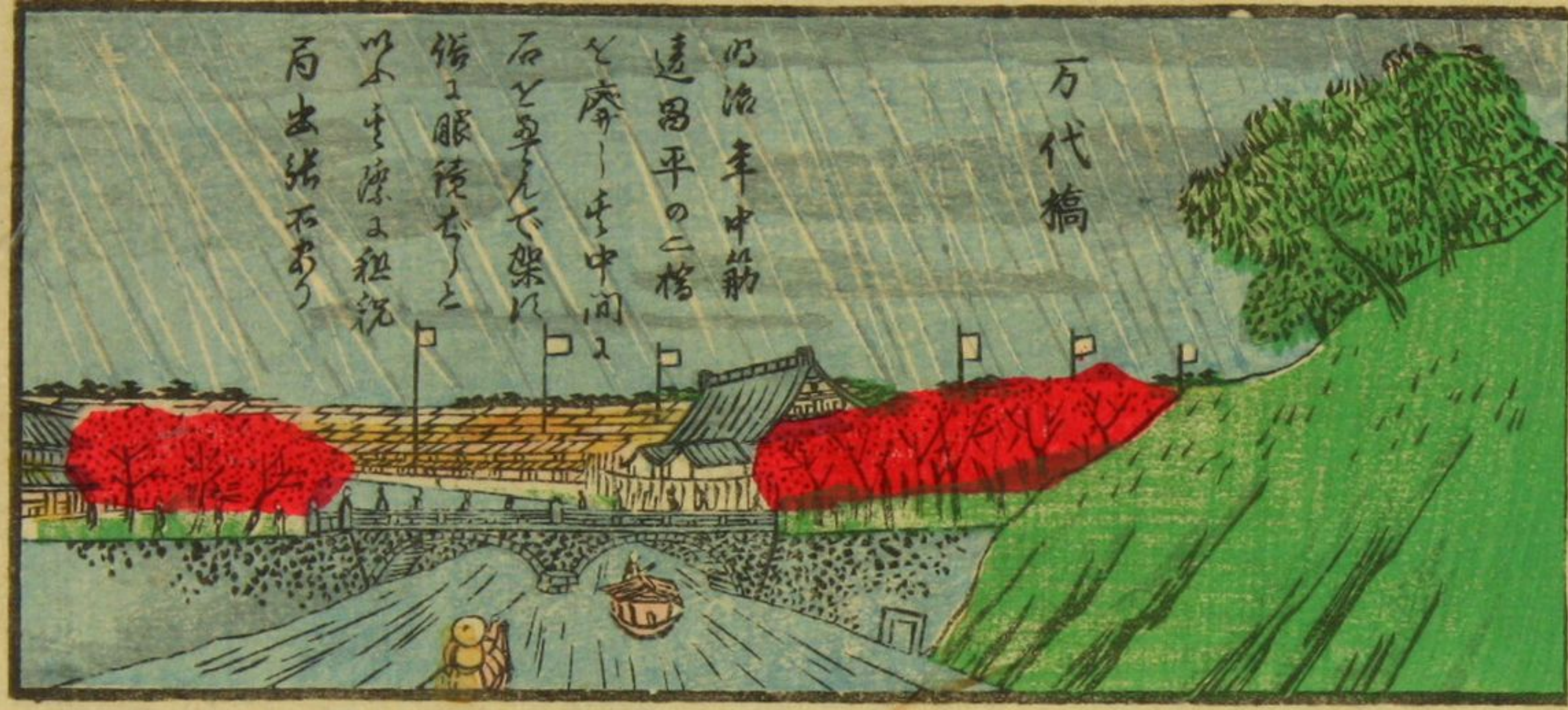
十五



市谷八幡  
 此社の文の年間  
 本田通清江之儀  
 徳儀の之におお  
 修長八幡と初  
 修長といふ教  
 林さかす四社



十四



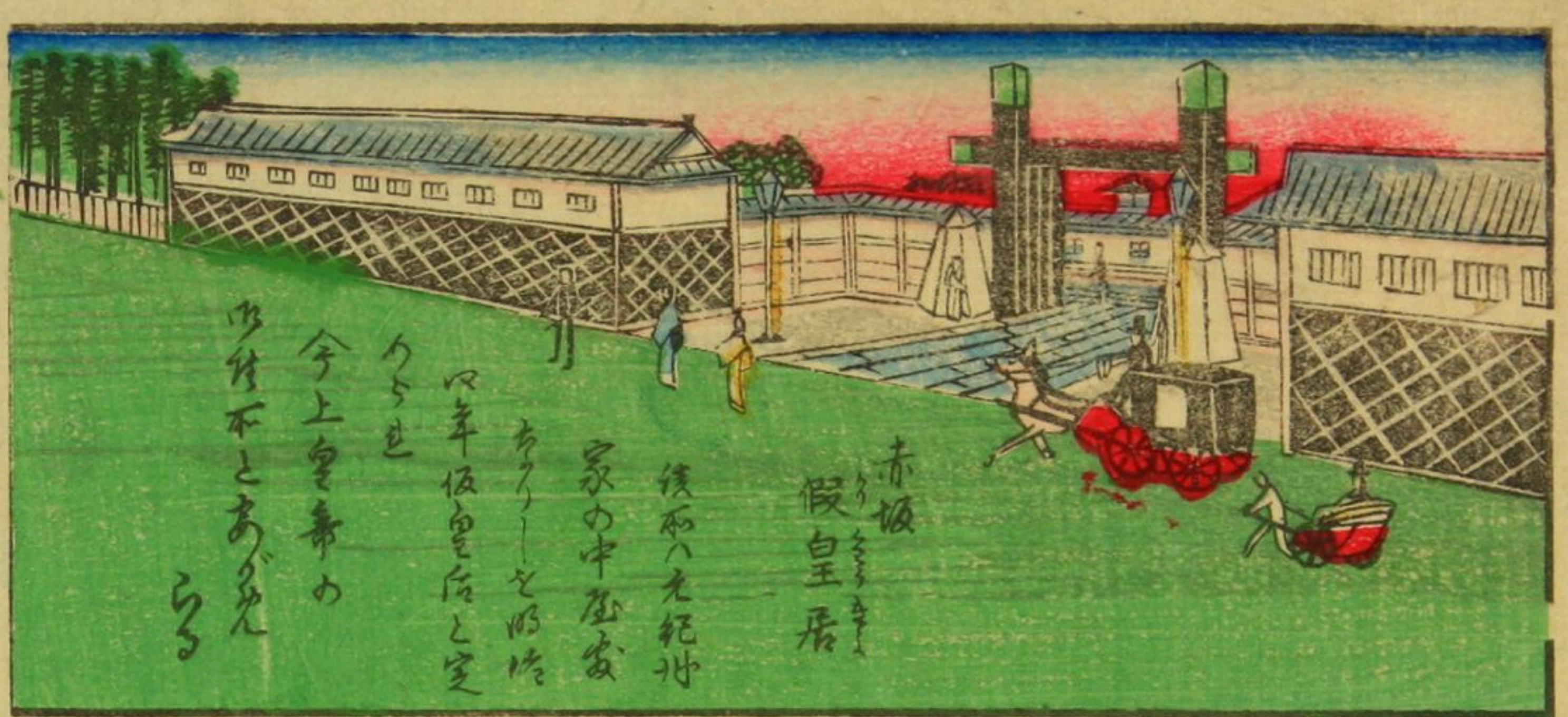
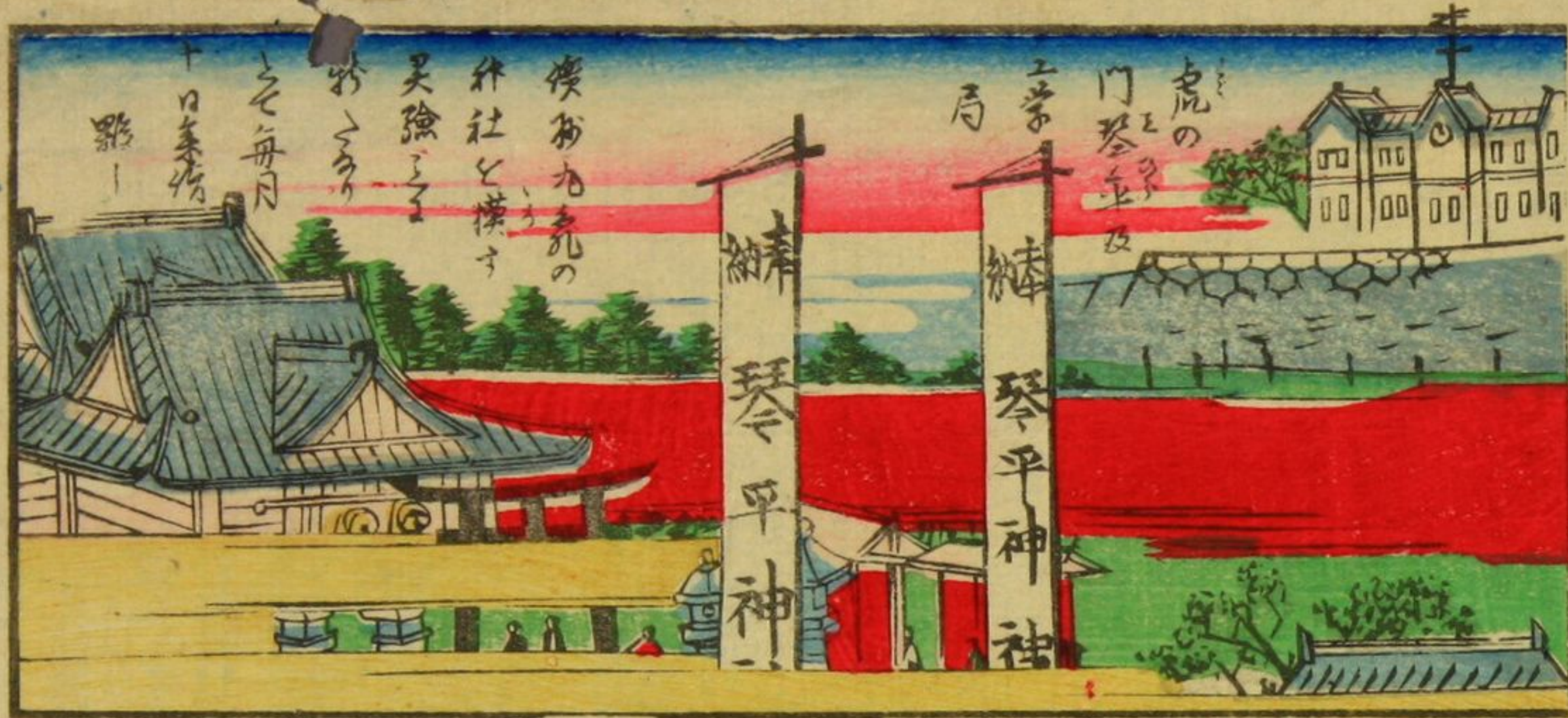
十五



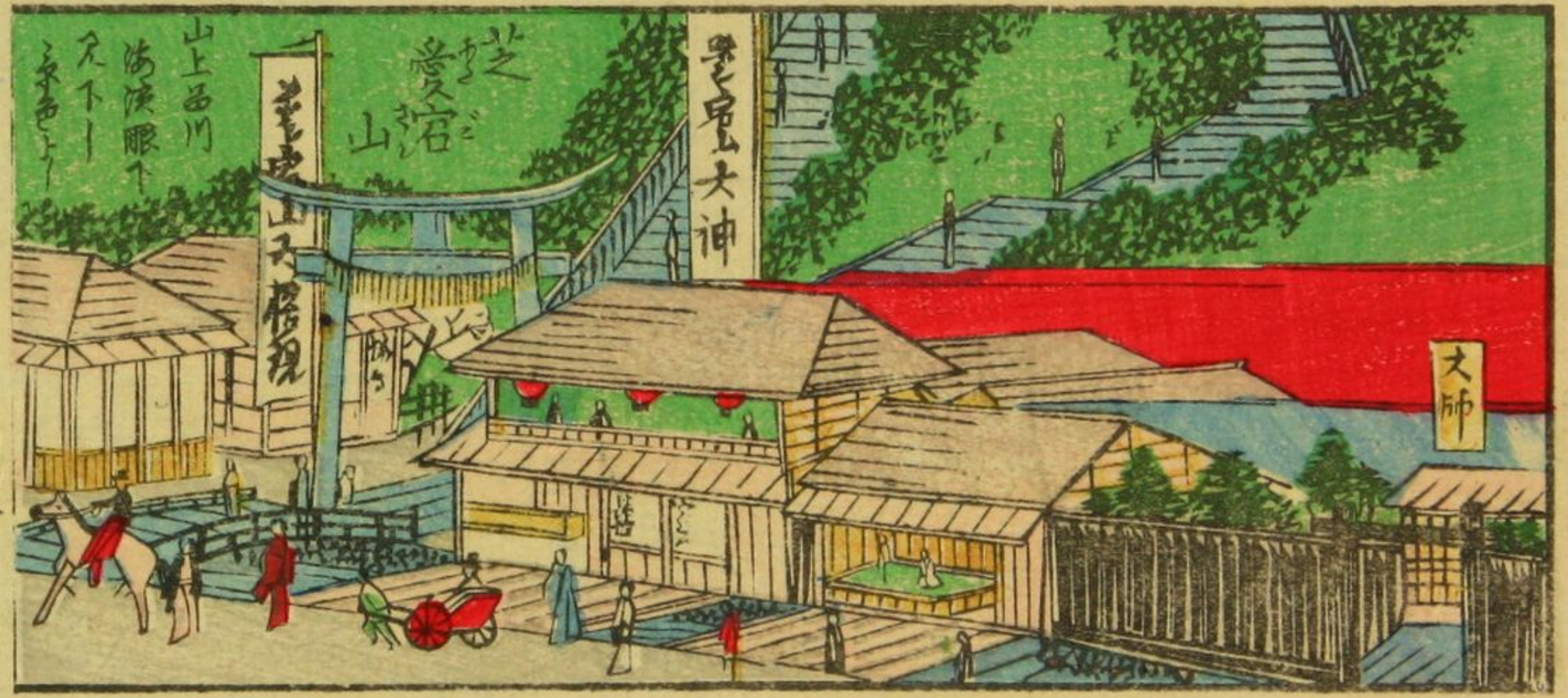
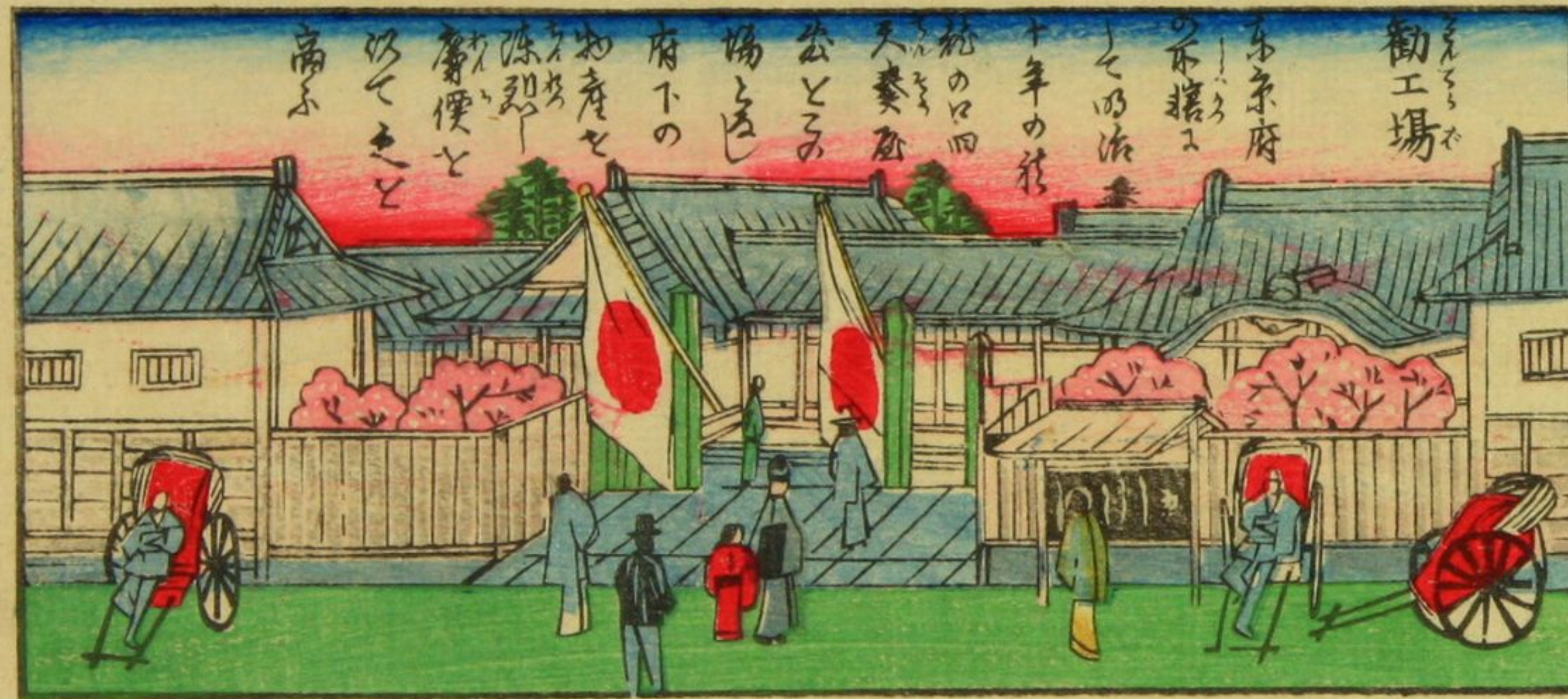




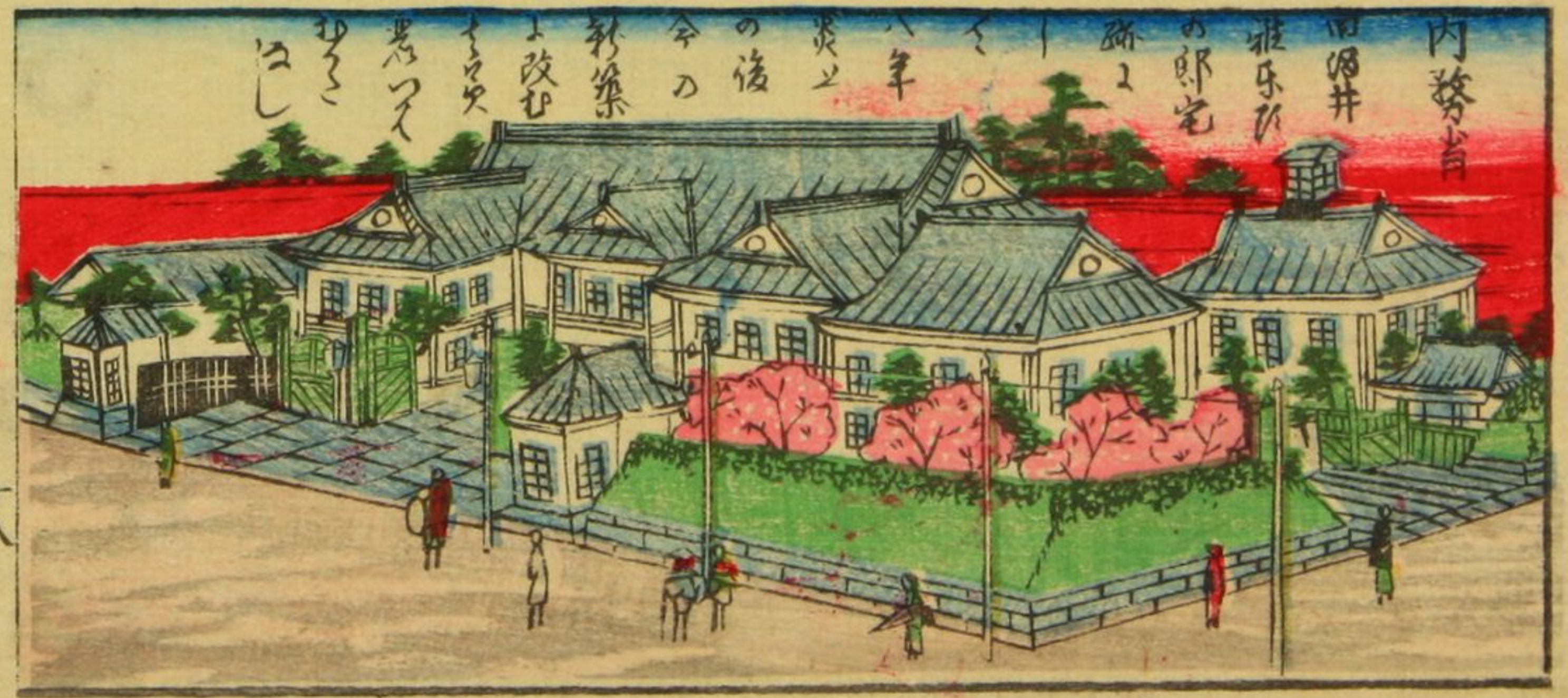
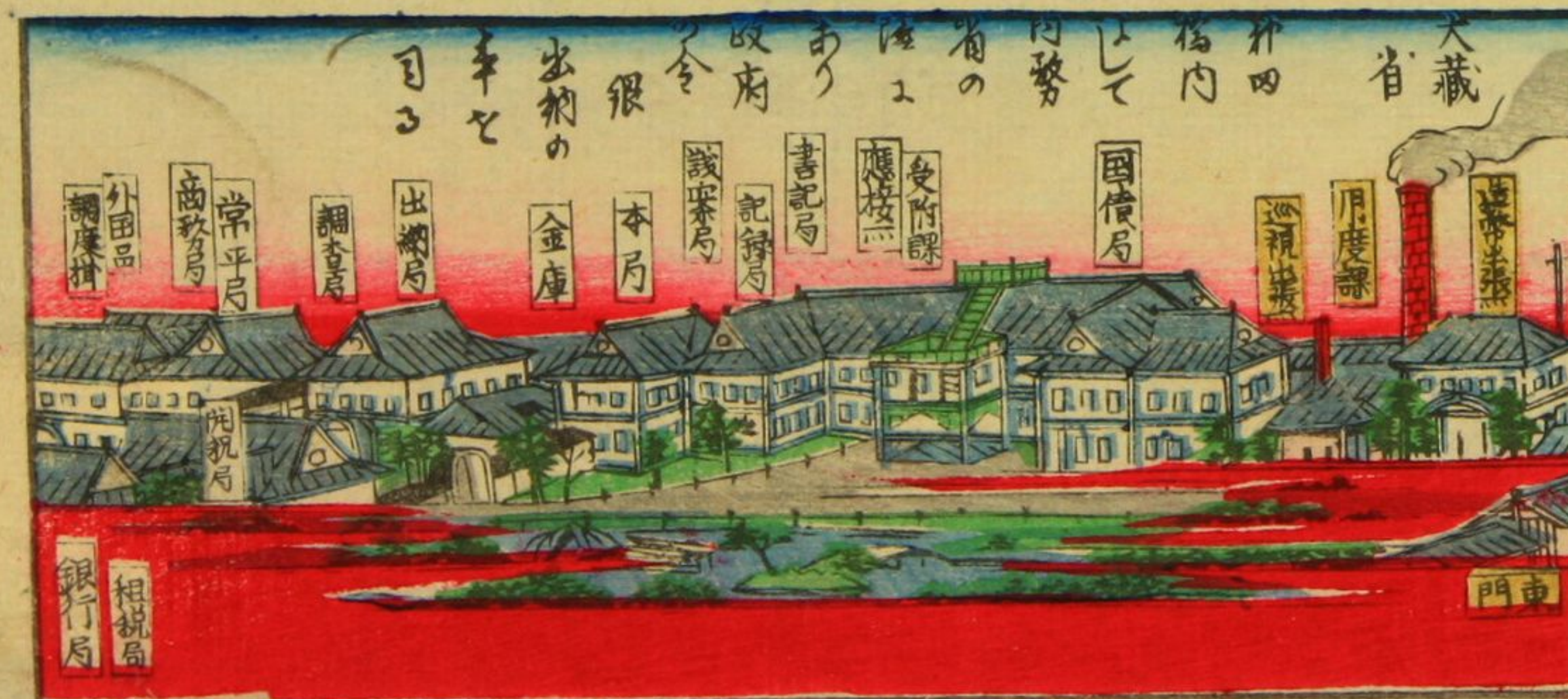




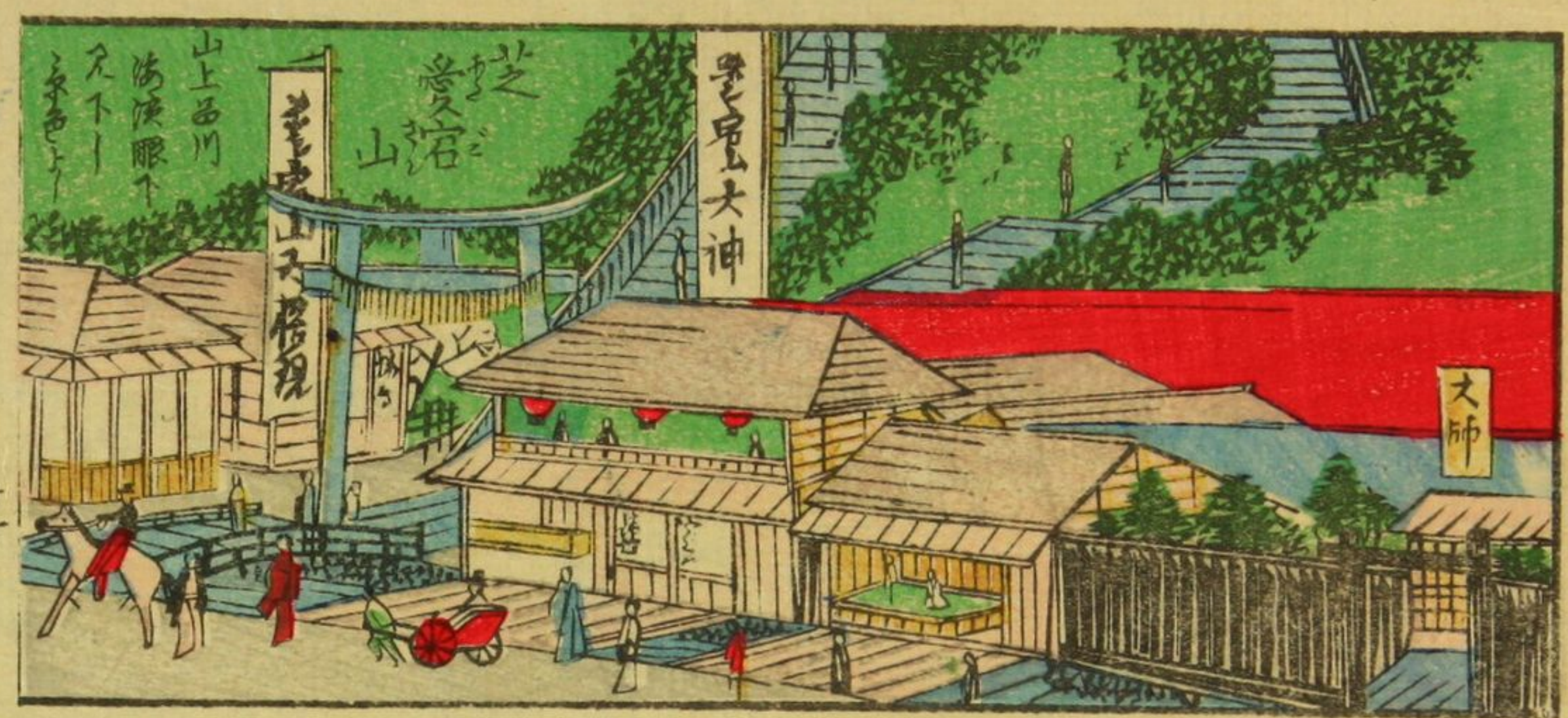
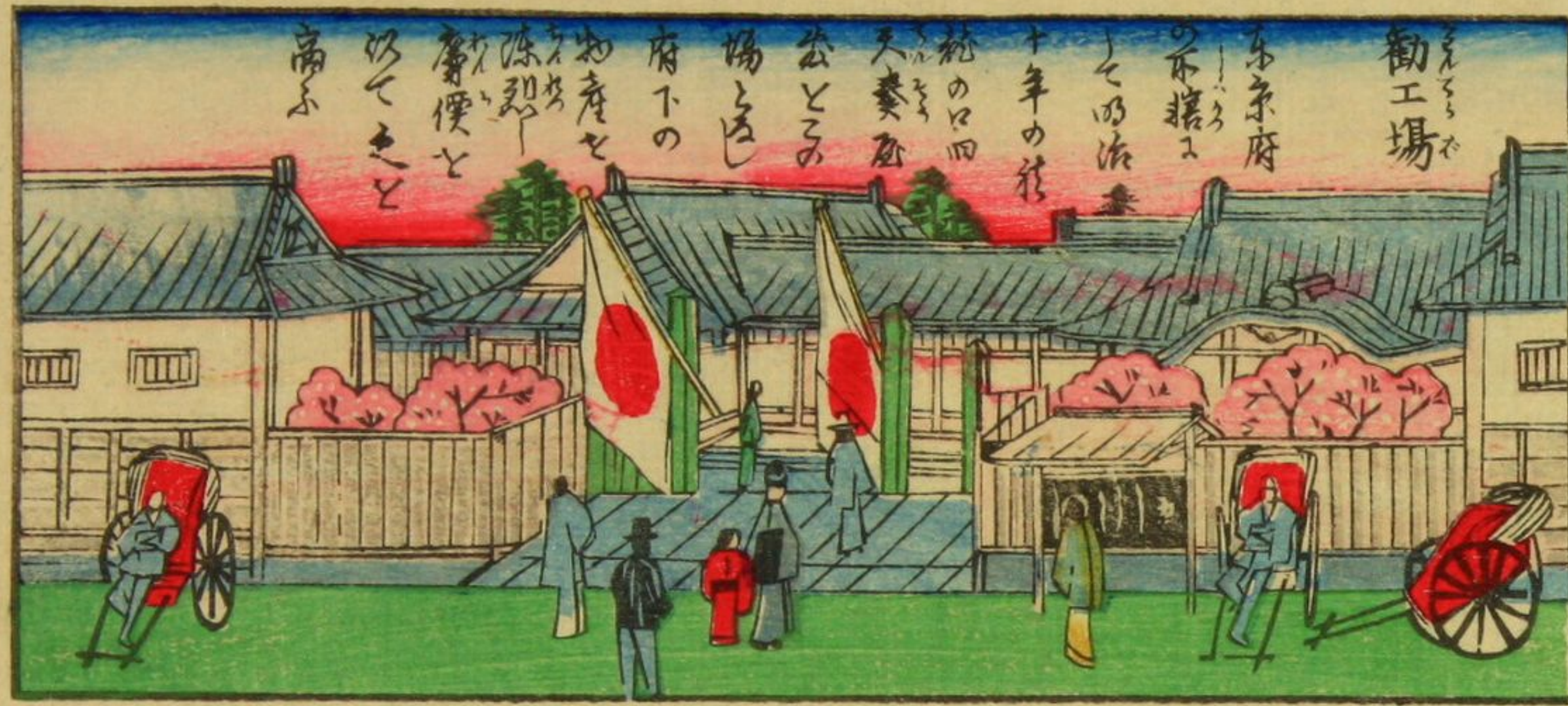
十六



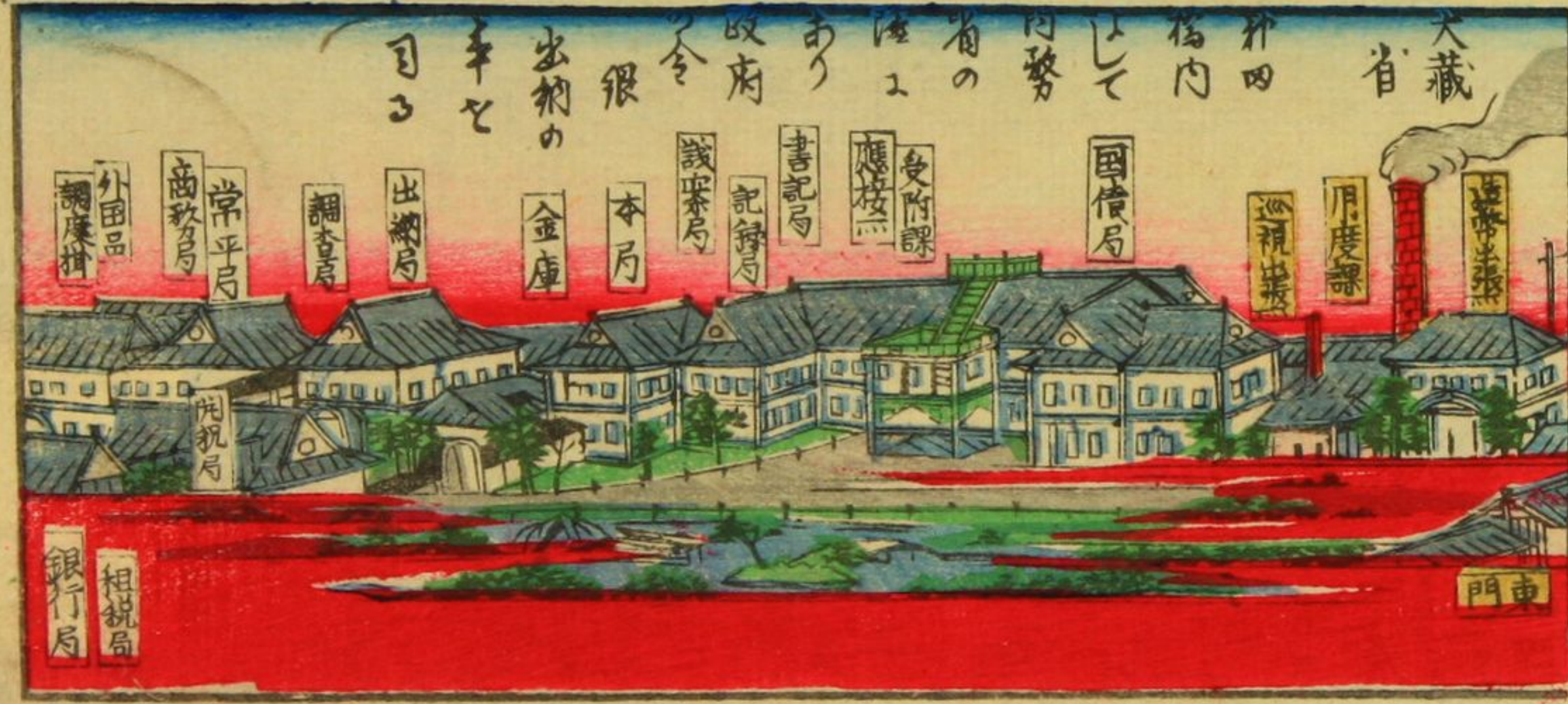
十七



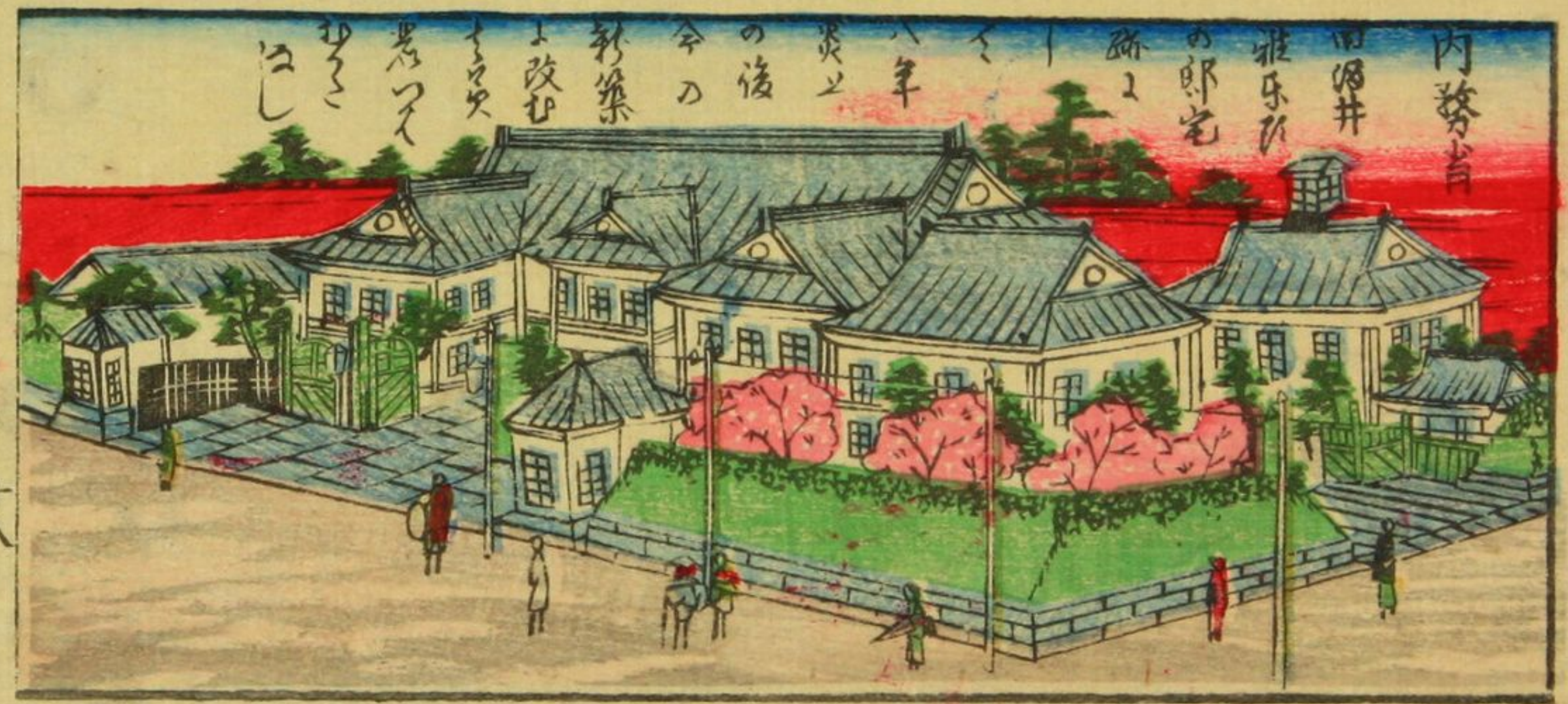
十八



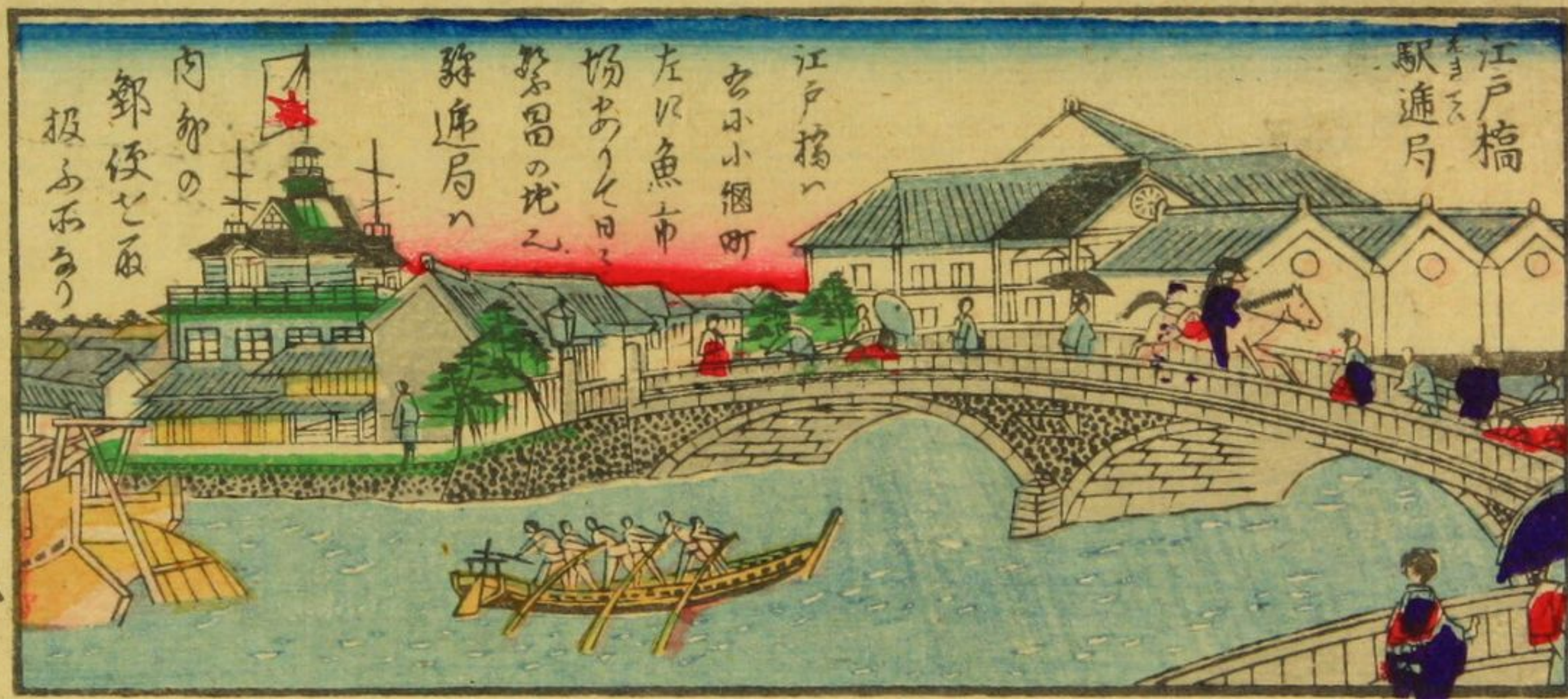
十七



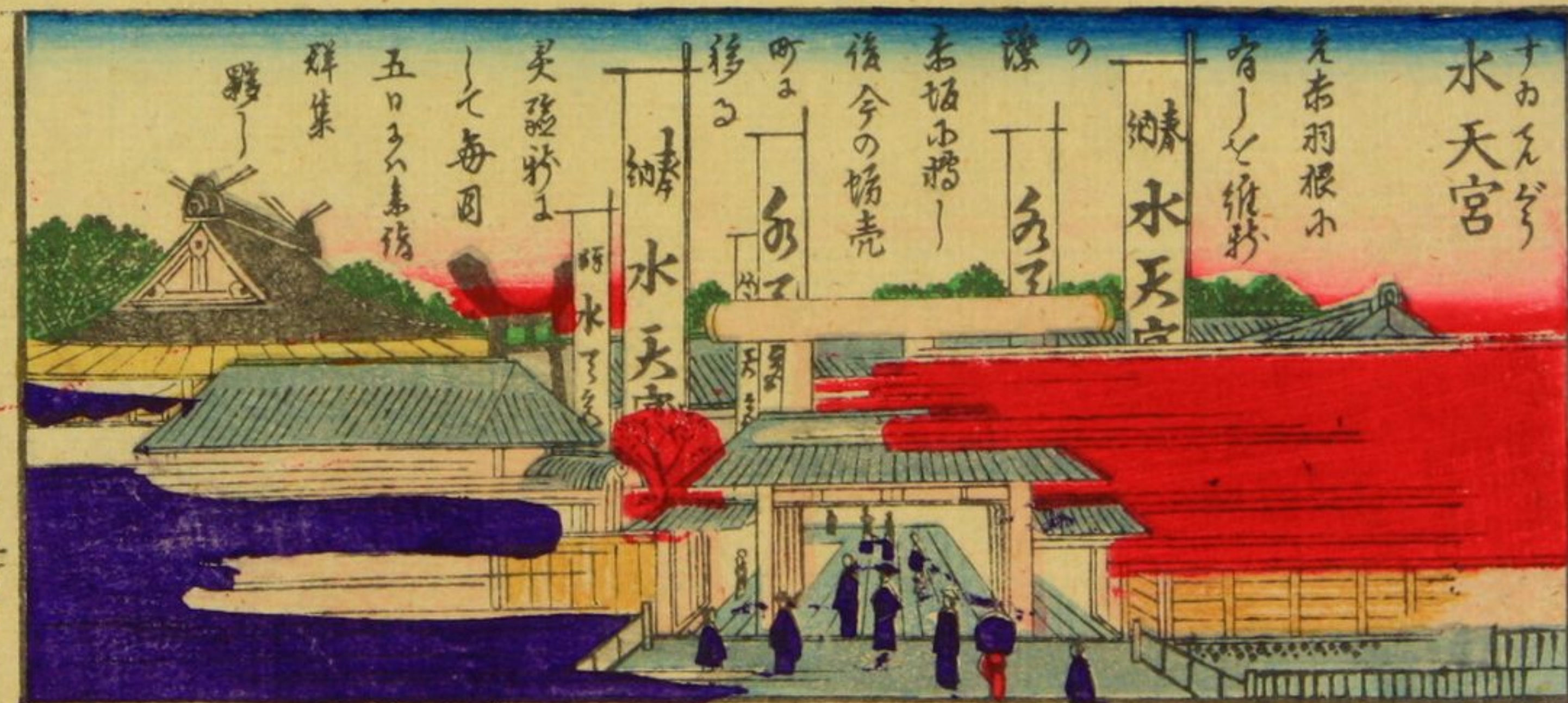
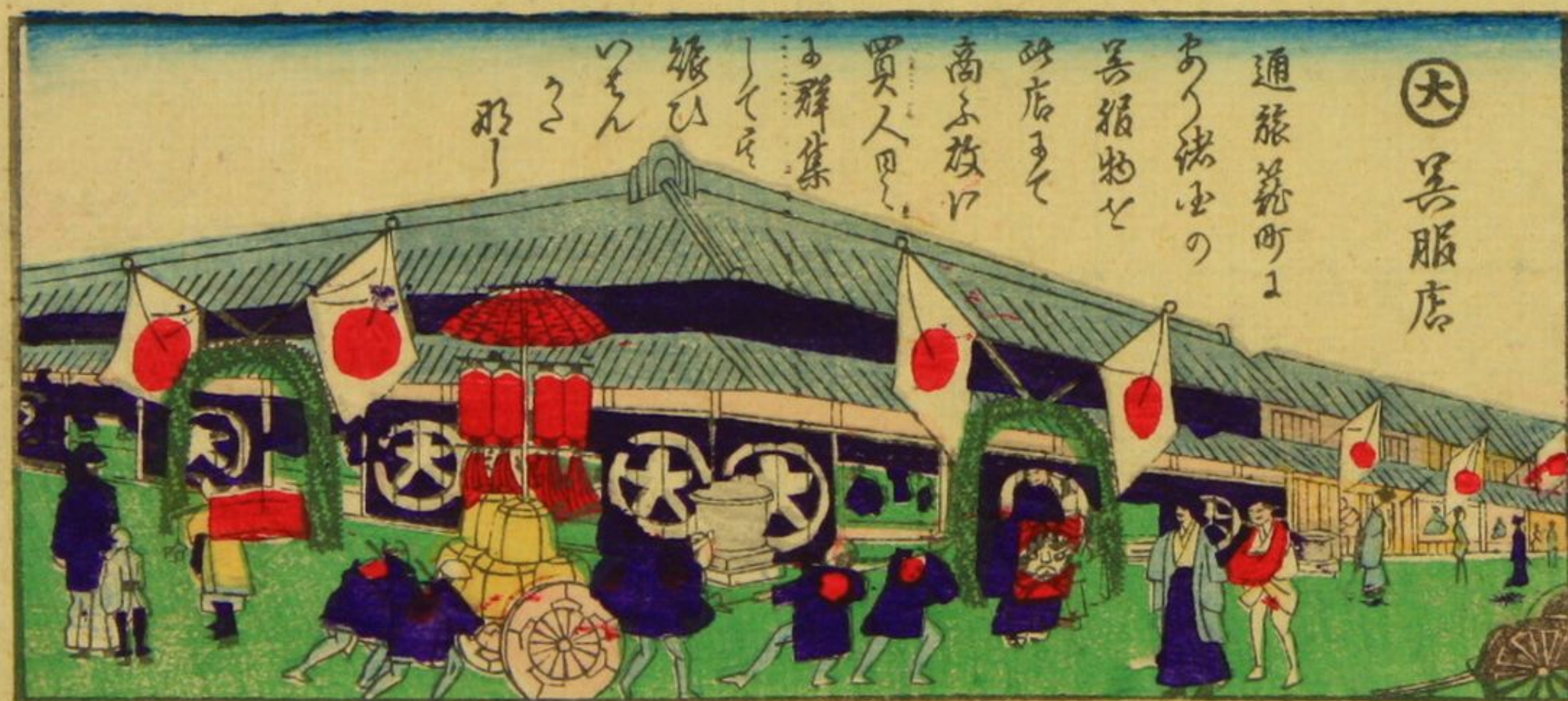
十八



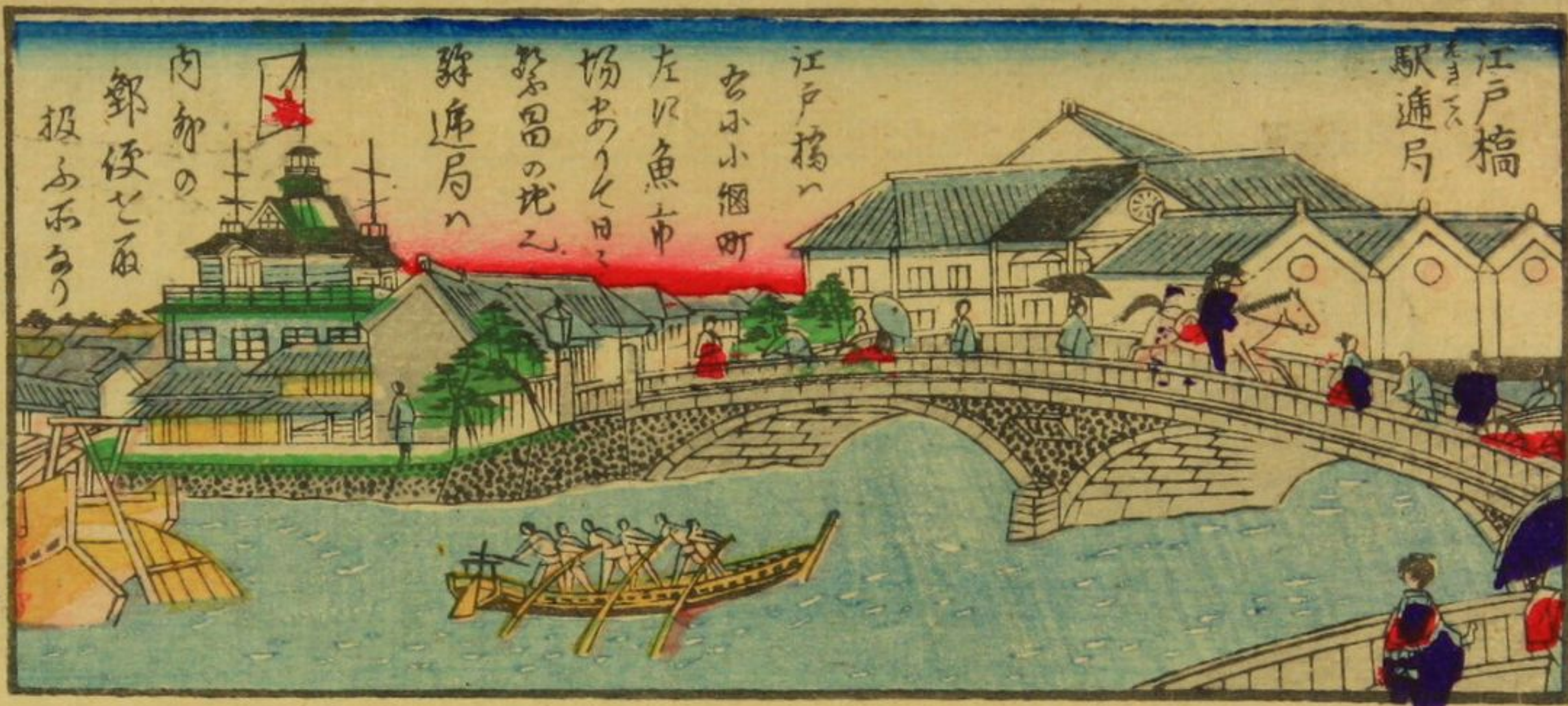




十九

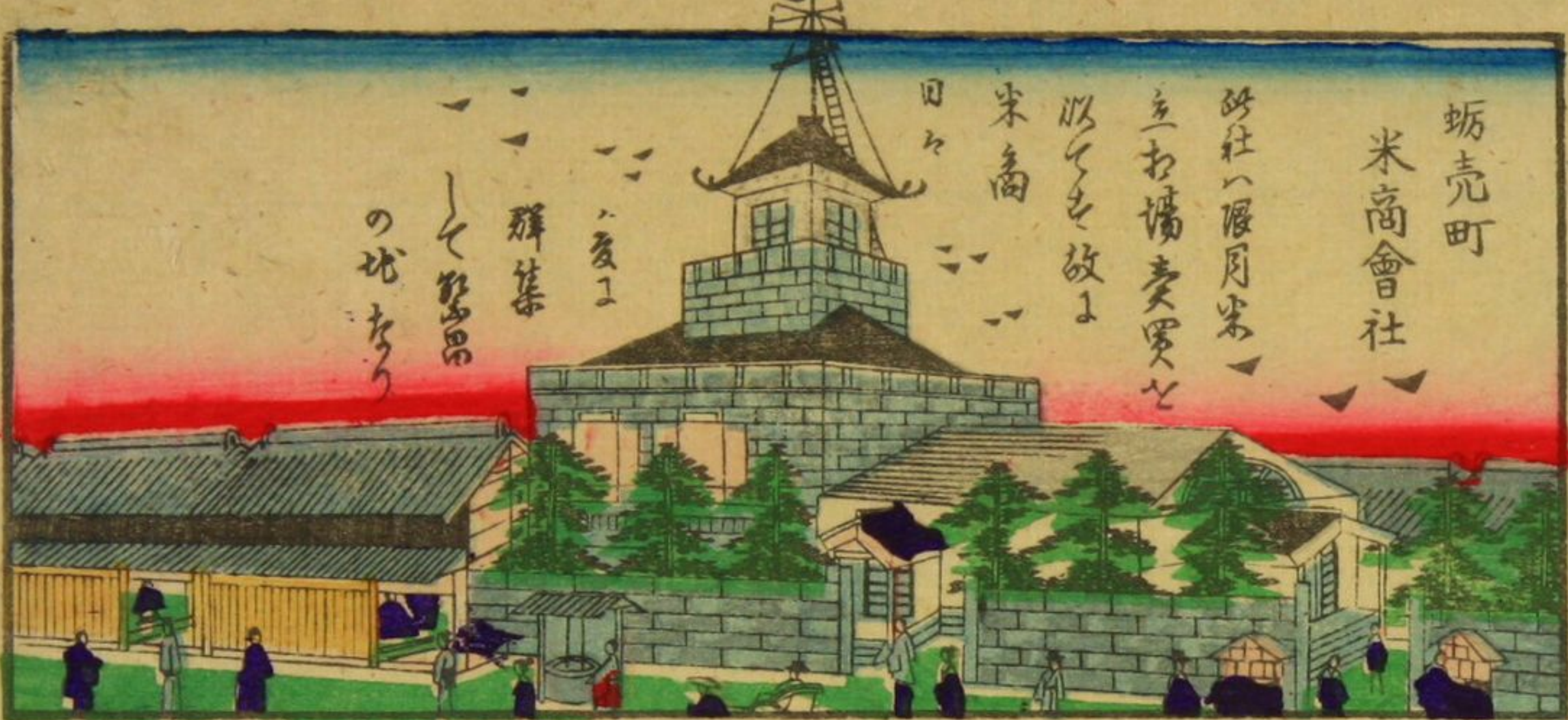


二十

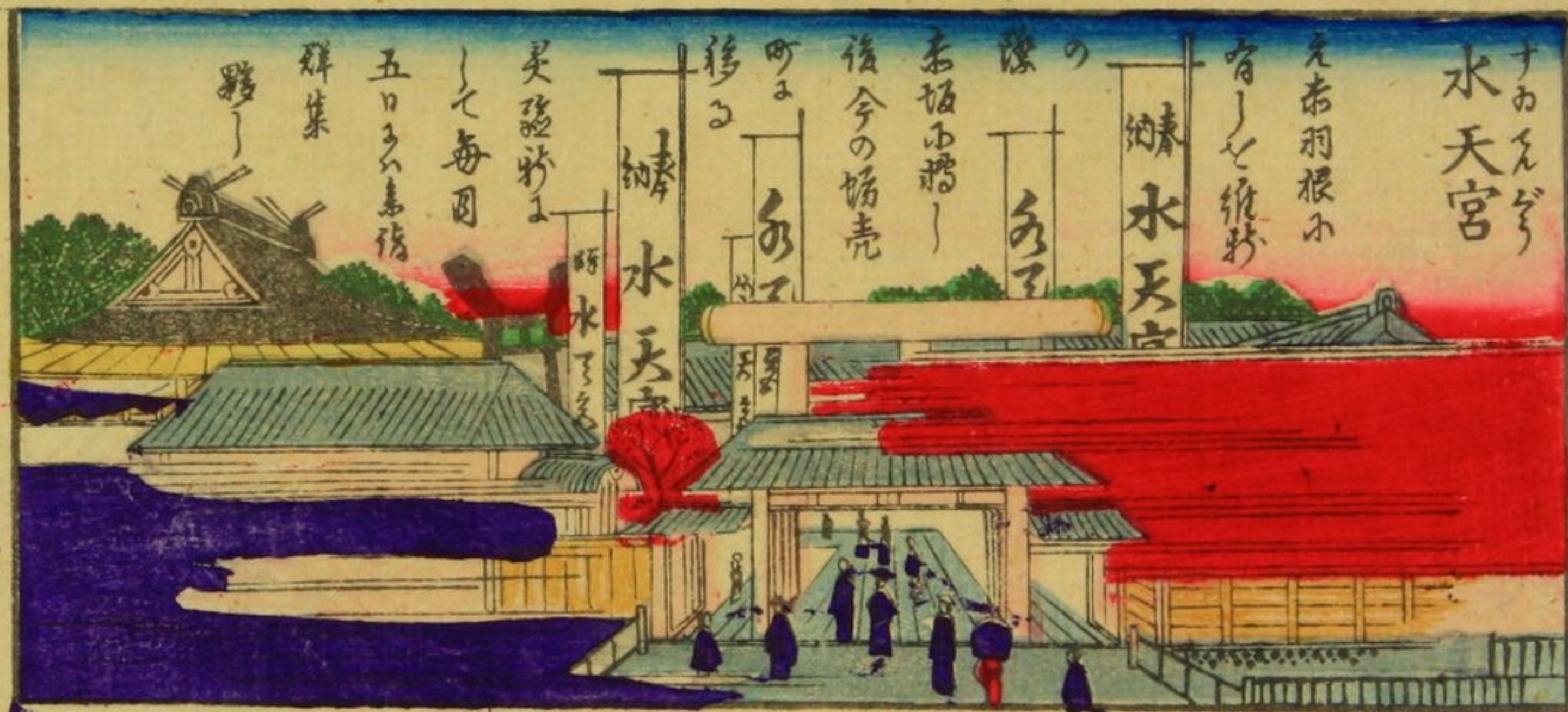


江戸橋  
 駒通局  
 江戸橋へ  
 左に魚市  
 場ありて日  
 暮りの光  
 輝る局の  
 内初の  
 郵便と取  
 扱ふ所あり

十九

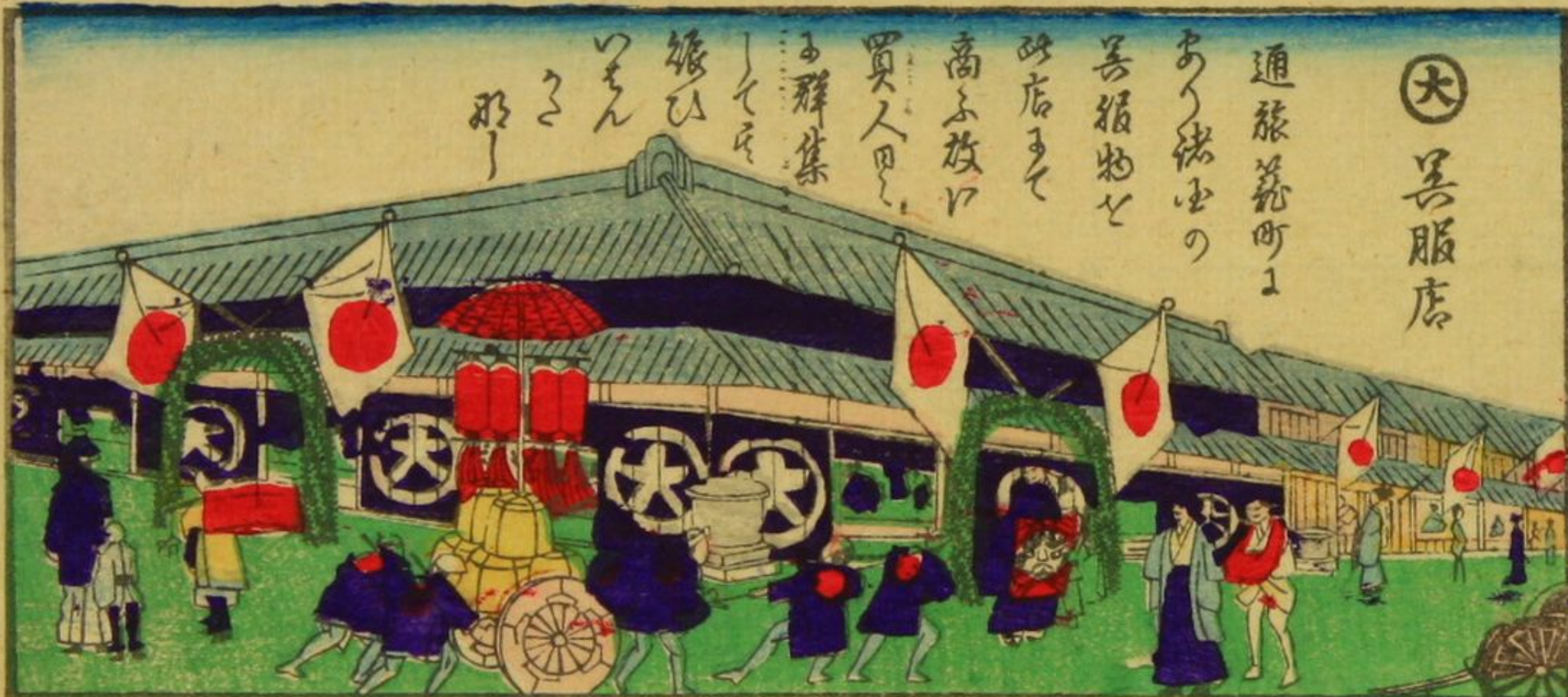


坂売町  
 米商會社  
 此社へ毎月米  
 をお持ち参り  
 以てを故  
 米高  
 日々  
 八五二  
 一 群集  
 一 米高  
 の地あり

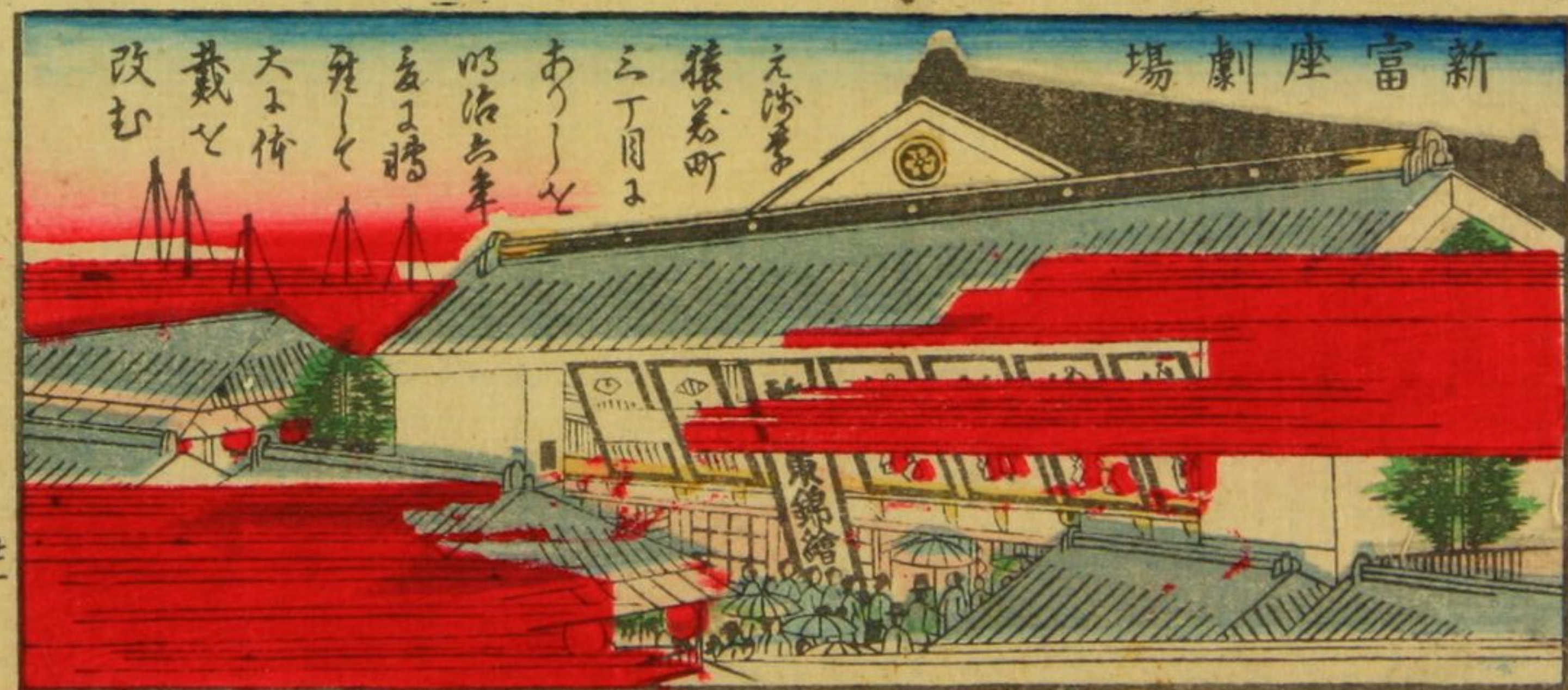


水天宮  
 先有羽根小  
 有しと維持  
 深の  
 水天宮  
 後今の坊売  
 移る  
 五口より  
 群集  
 美談あり  
 一々毎  
 移る

二十



大異服店  
 通旅藝所  
 あり此店の  
 異服物と  
 此店まで  
 高ふ故に  
 買入思  
 一 群集  
 一 米高  
 の地あり



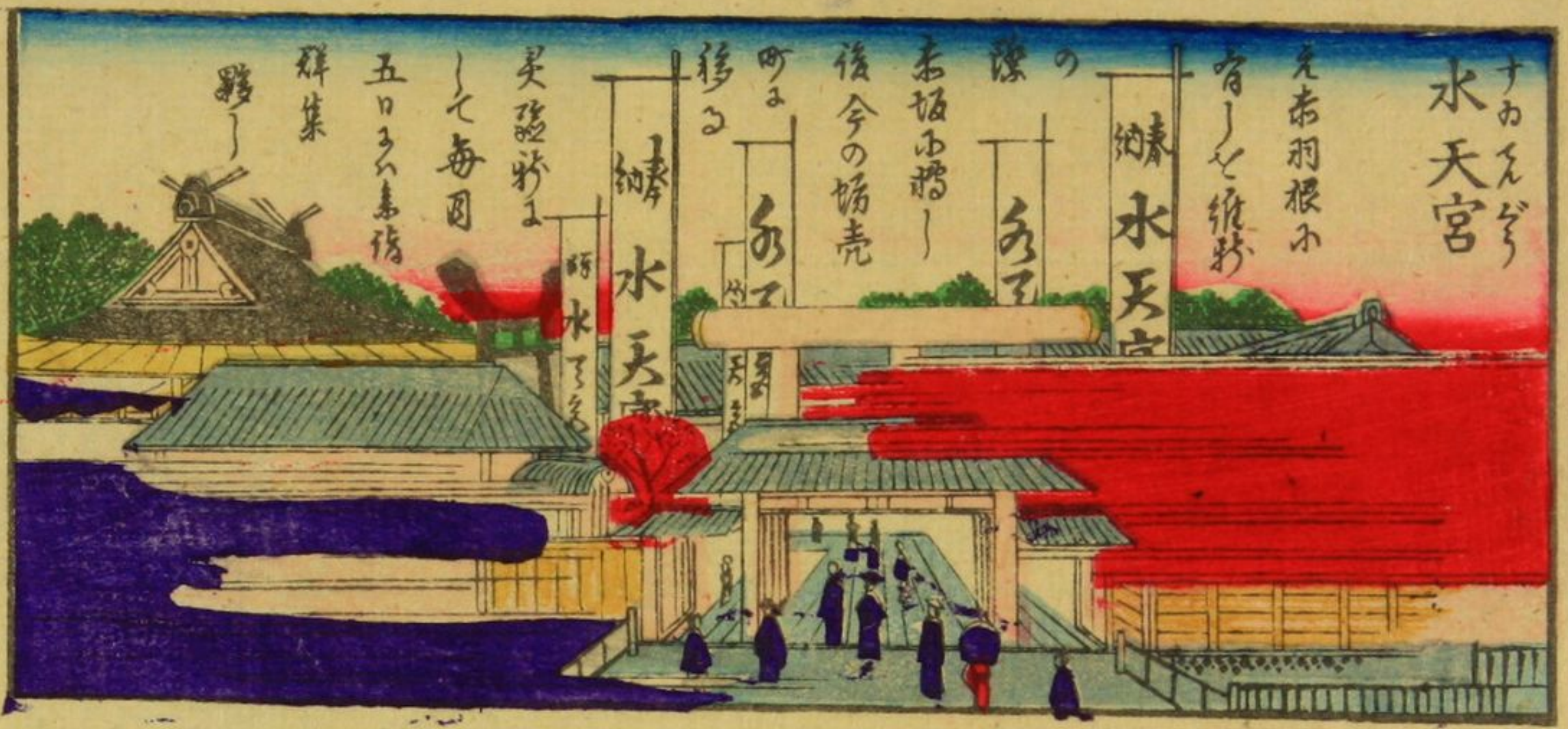
新宿富座劇場  
 元清堂  
 猿若町  
 三丁目  
 ありて  
 明治六年  
 長子清  
 大子清  
 裁と  
 改む

廿一



國利

御届明治十四年一月十日  
 同月出版  
 定價二十錢  
 東京府平民  
 山村清助  
 小川町廿五番地  
 出版人  
 東京府平民  
 辻屋文助  
 横山町三丁目  
 各洋州紙店勅工場ホ(見出)一  
 有之云々東京府一の水土産  
 水産の富水産の程備考あり



すめみづ  
水天宮

先帝羽根小  
有りと統勢

水天宮

の  
深

未始小橋  
後今の橋売

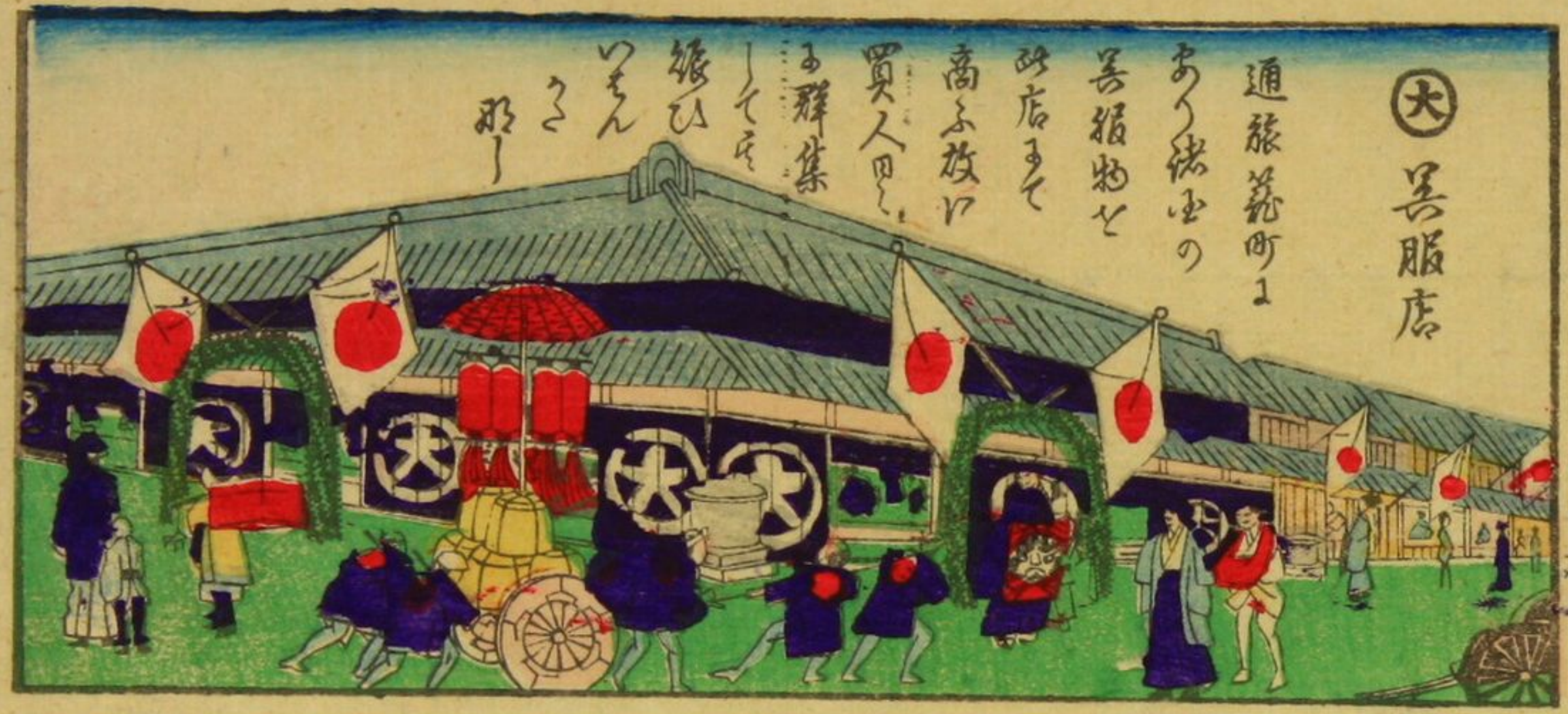
町  
移

水天宮

又臨時  
一七毎週

五日  
群集

群集



大  
呉服店

通旅花町

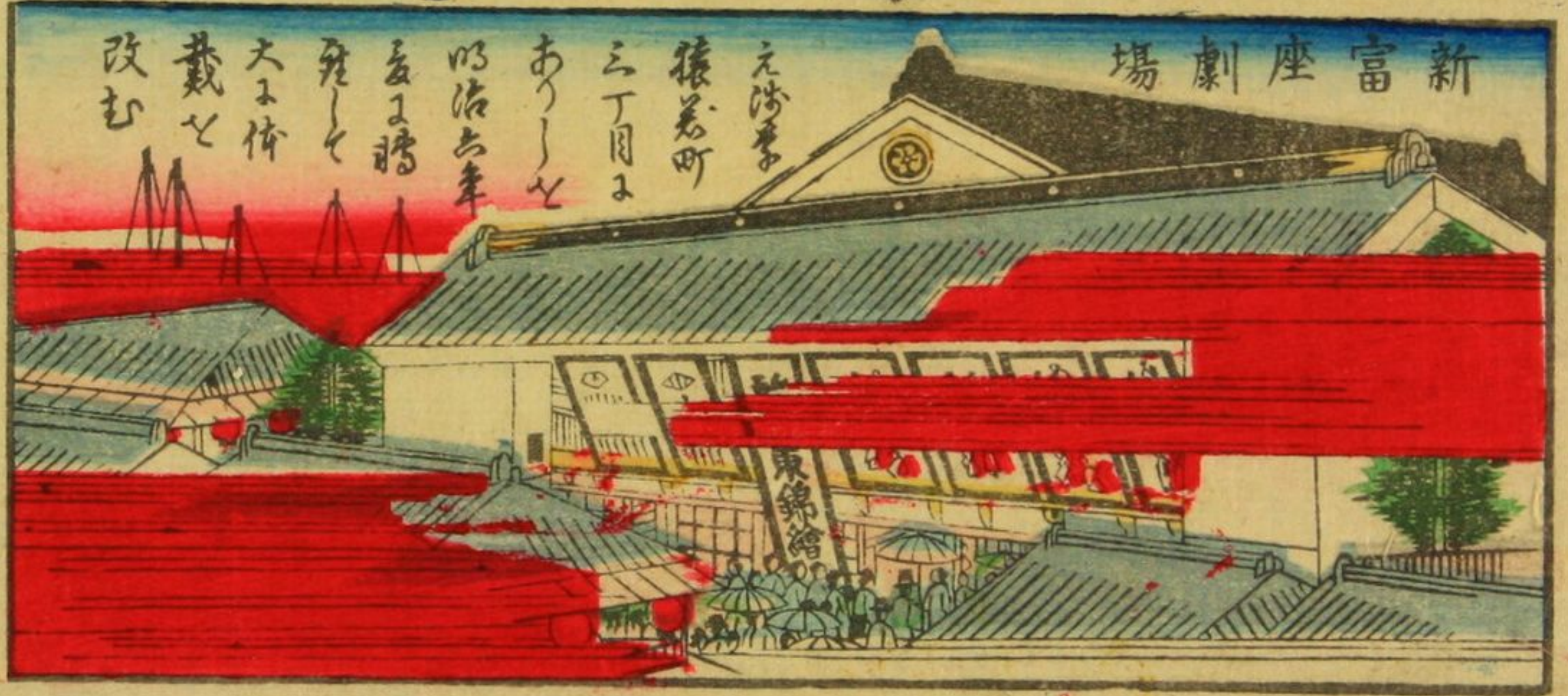
あつ徳正の  
呉服物々

高ふ放り  
買人思

群集

群集

群集



新宿座劇場

元沙草

猿若町

三丁目

あつ徳正

明治六年

大工俵

改訂



國利

御届明治十四年一月二十日  
同月出版

定價二十錢

東京府平民  
山村清助

小川町卅五番地

辻屋文助

各佐州紙店勅工場本(差出)

有之六本東京外一の山土産之  
水産之百水求之程備有等上

出版人